

# 男女共同参画社会に関する県民意識調査 報 告 書

---

## <概 要 版>

令和 7 年 3 月

群 馬 県

# 目 次

|    |                                           |    |
|----|-------------------------------------------|----|
| I  | 群馬県男女共同参画基本計画（第5次）成果目標達成状況 .....          | 3  |
| II | 県民意識調査結果 .....                            | 4  |
| 1  | 回答者の属性 .....                              | 4  |
| 2  | 男女の平等感について .....                          | 8  |
| 3  | 結婚に関する考え方や家庭内での役割について .....               | 11 |
| 4  | 男性の参画について .....                           | 20 |
| 5  | 職場や働き方について .....                          | 22 |
| 6  | 男女共同参画社会づくりのための施策について .....               | 32 |
| 7  | ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について ..... | 38 |

| 調査概要   |                                                                                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■調査対象  | 県内在住の18歳以上の男女個人2,000人                                                                                                                                  |
| ■抽出方法  | インターネットモニター                                                                                                                                            |
| ■調査方法  | インターネットを利用した調査                                                                                                                                         |
| ■調査期間  | 令和6年12月3日(火)～12月18日(水)                                                                                                                                 |
| ■有効回収数 | 2,000人                                                                                                                                                 |
| ■調査項目  | 1 回答者の属性<br>2 男女の平等感について<br>3 結婚に関する考え方や家庭内での役割について<br>4 男性の参画について<br>5 職場や働き方について<br>6 男女共同参画社会づくりのための施策について<br>7 ドメスティック・バイオレンス(DV)及び困難な問題を抱える男女について |

## 概要版の見方

- ・ 回答比率（％）は、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位までを表示しているため、表示された回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ グラフに表記される「N＝※」（※は数字）は、該当質問の回答者数を表します。
- ・ グラフにおいて、選択肢の文章が長い場合は簡略化して表示しているため、調査票の文章とは一致しない場合があります。
- ・ グラフは、質問によって全体結果のみを示したものと男女別の結果を示したものがあります。
- ・ 概要版には経年変化のグラフは掲載されていないため、報告書本体の「第3章 調査結果の詳細」をご覧ください。

## I 群馬県男女共同参画基本計画（第5次）成果目標達成状況

| 基本<br>目標 | 項目                                  | 目標値(R7) | 基準値(R1) | 結果(R6)            |
|----------|-------------------------------------|---------|---------|-------------------|
|          |                                     | 数値(単位)  | 数値(単位)  | 数値(単位)            |
| 2        | 夫婦が同じくらい育児を分担する家庭の割合<br>(問 15)      | 35.0%   | 25.4%   | 26.4%<br>(34.8%※) |
| 4        | DV等の被害者支援相談窓口を「いずれも知らない」人の割合 (問 37) | 20.0%   | 37.2%   | 50.6%             |
| 8        | 男女の地位の平等感 (社会全体) (問 10)             | 35.0%   | 17.4%   | 17.5%             |
|          | 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛同しない県民の割合 (問 12) | 75.0%   | 67.1%   | 71.6%             |
| 10       | ぐんま男女共同参画センターの認知度<br>(問 31)         | 55.0%   | 23.0%   | 25.3%             |

※群馬県男女共同参画計画(第5次)成果目標「基本目標 2」の目標値、基準値、結果の数値は、問 15 の「育児・子育て」で「男女が共に担っている」の割合を基に設定または算出されていますが、当該数値には「該当しない(一人暮らしなど)」と回答した人数を分母に含めて算出している点についてご注意ください。

なお、「該当しない(一人暮らしなど)」を除き、夫婦のみを分母として算出した数値について、参考値として括弧内に併記しています。

## 【群馬県男女共同参画基本計画（第5次）参考指標】

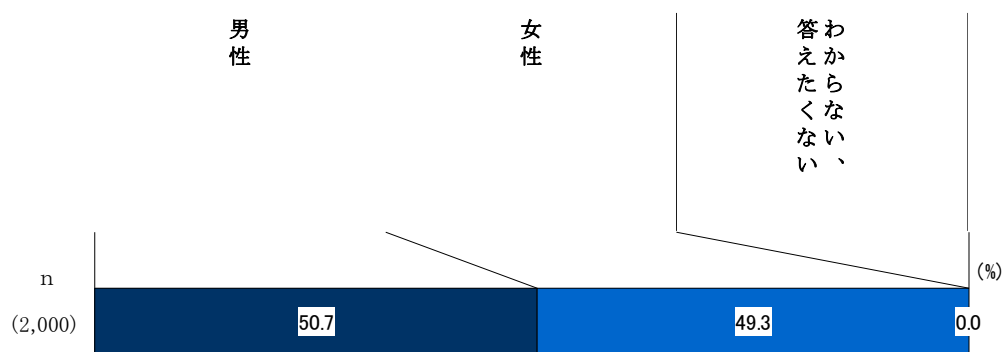
| 基本<br>目標 | 項目                              | 前回調査<br>(R1) | 今回調査結果<br>(R6) |
|----------|---------------------------------|--------------|----------------|
| 8        | 「男女共同参画社会」の認知度<br>(基本目標 8、問 25) | 47.5%        | 49.5%          |

## Ⅱ 県民意識調査結果

### 1 回答者の属性

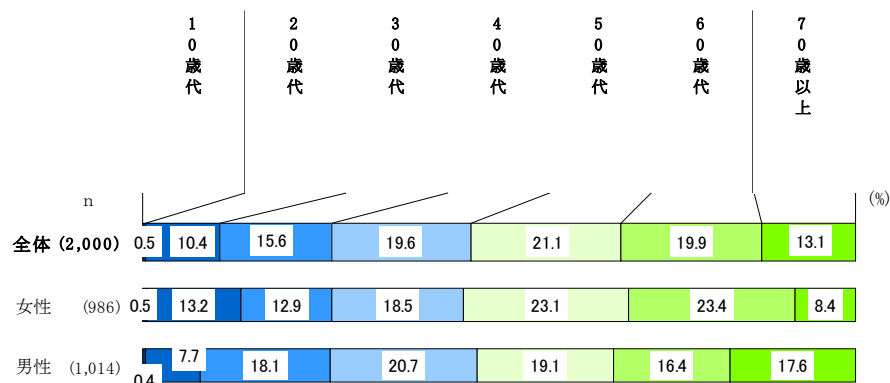
#### (1) 性別

- 女性（49.3%）、男性（50.7%）ともに約 5 割となっています。



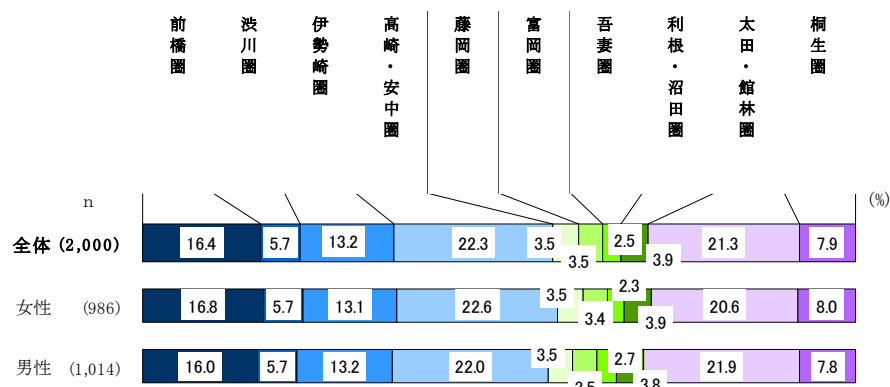
#### (2) 年代

- 女性は 60 歳代（23.4%）、男性は 40 歳代（20.7%）が最も多くなっています。
- 令和元年度と比べて、70 歳以上の回答比率（令和 6 年度 13.1%、令和元年度 5.5%）が高まり、70 歳以上の男性（令和 6 年度 17.6%、令和元年度 7.6%）では 10.0 ポイントの差が見られます。



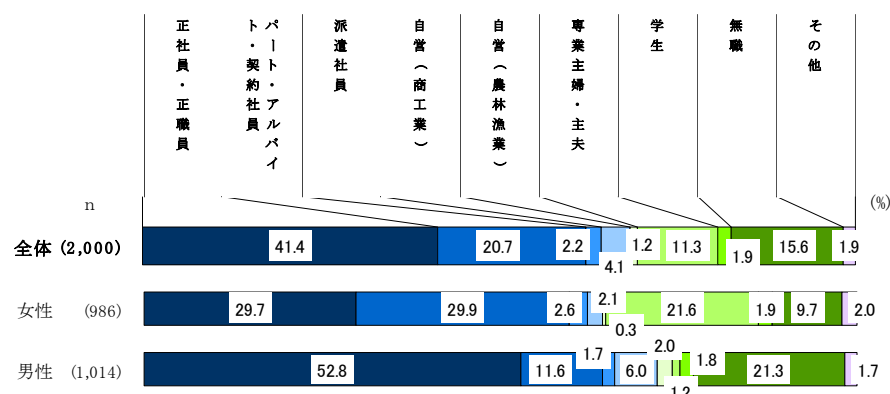
#### (3) 居住地

- 男女とも高崎・安中圏（女性 22.6%、男性 22.0%）が最も多くなっています。次いで男女とも太田・館林圏（女性 20.6%、男性 21.9%）が多くなっています。



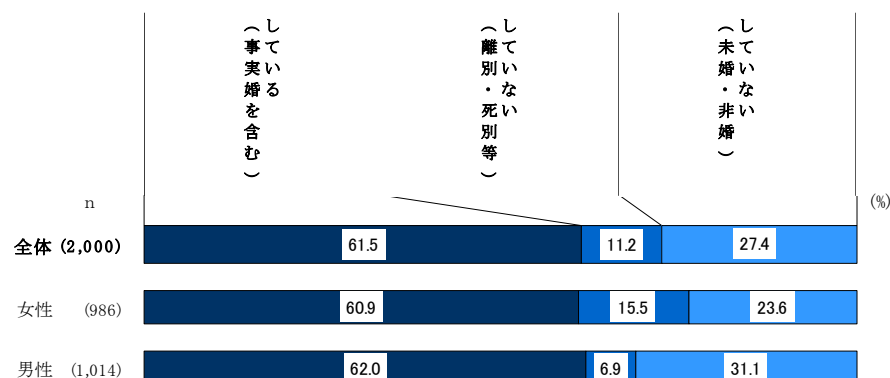
#### (4) 職業

- 「正社員・正職員」では男性（52.8%）が女性（29.7%）を大きく上回り、「パート・アルバイト・契約社員」では女性（29.9%）が男性（11.6%）を大きく上回っています。
- 男性と比べ、女性の「正社員・正職員」比率は低いですが、女性の「正社員・正職員」（29.7%）と「パート・アルバイト・契約社員」（29.9%）が同程度となっています。



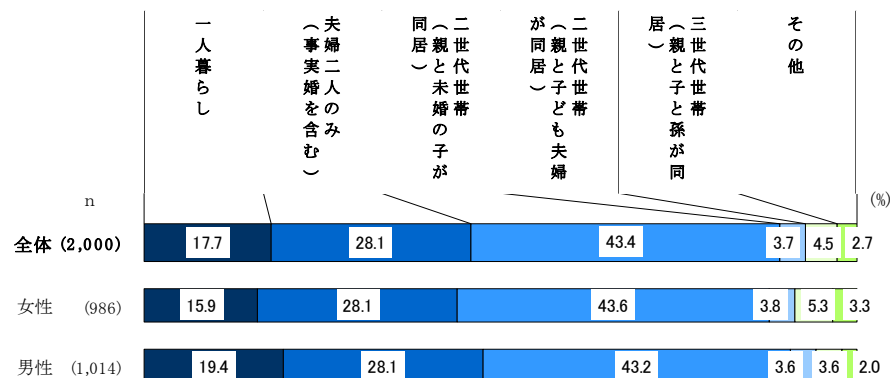
#### (5) 結婚

- 男女とも「している（事実婚を含む）」（女性 60.9%、男性 62.0%）が6割以上で特に多く、次いで「していない（未婚）」（女性 23.6%、男性 31.1%）となっています。



#### (6) 世帯構成

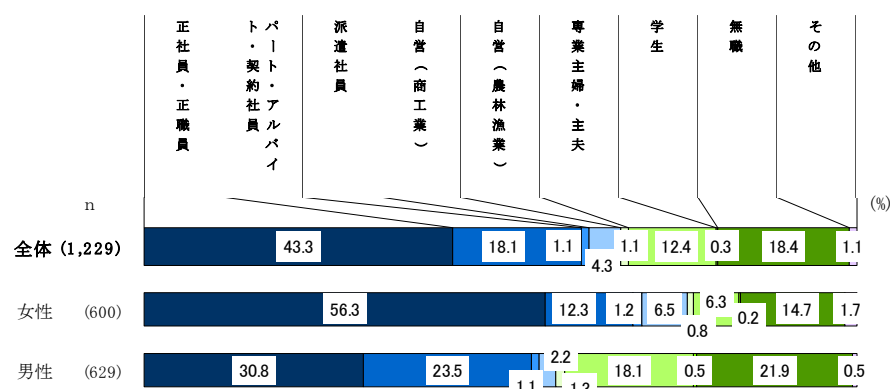
- 男女とも「二世帯世帯（親と未婚の子が同居）」（女性 43.6%、男性 43.2%）が最も多く、次いで「夫婦二人のみ（事実婚を含む）」（女性 28.1%、男性 28.1%）となっています。



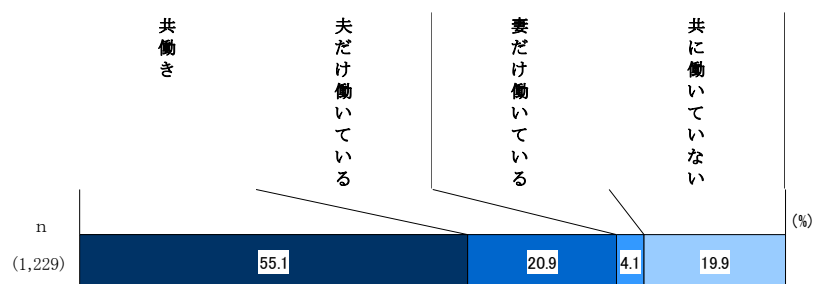
## (7) 配偶者の職業・夫婦の働き方

- 回答者が女性の場合の配偶者は「正社員・正職員」(56.3%)が約6割で最も多く、回答者が男性の場合よりも大きく上回っています。一方で回答者が男性の場合は、「パート・アルバイト・契約社員」(23.5%)が2割以上で、回答者が女性の場合よりも大きく上回っています。
- 「(5) 結婚」で「している(事実婚を含む)」と回答した1,229人の夫婦の働き方を見ると、「共働き」(55.1%)が最も多く、次いで「夫だけが働いている」(20.9%)、「共に働いていない」(19.9%)が多くなっています。

### 【配偶者の職業】

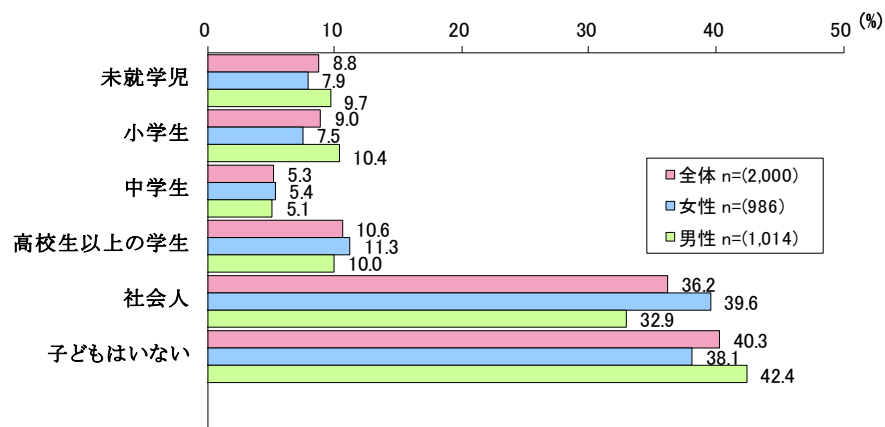


### 【夫婦の働き方】

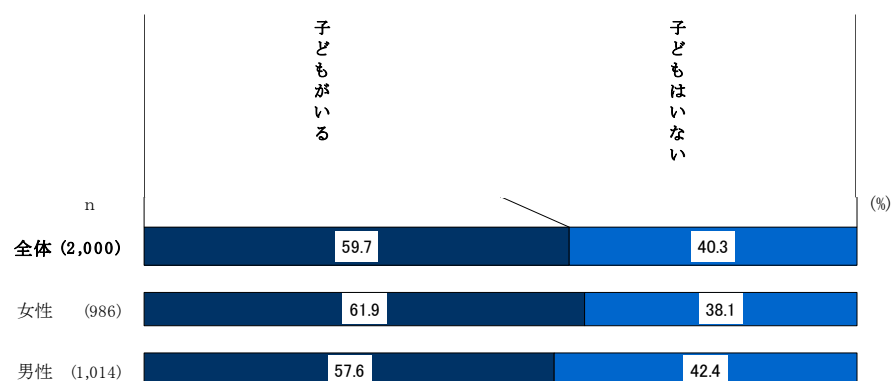


## (8) 子どもについて

- 男女とも「子どもはいない」(女性 38.1%、男性 42.4%) が最も多くなっています。次いで男女とも「社会人」(女性 39.6%、男性 32.9%) が多くなっています。
- 「子どもがいる」(女性 61.9%、男性 57.6%) が男女とも 6 割前後となっています。

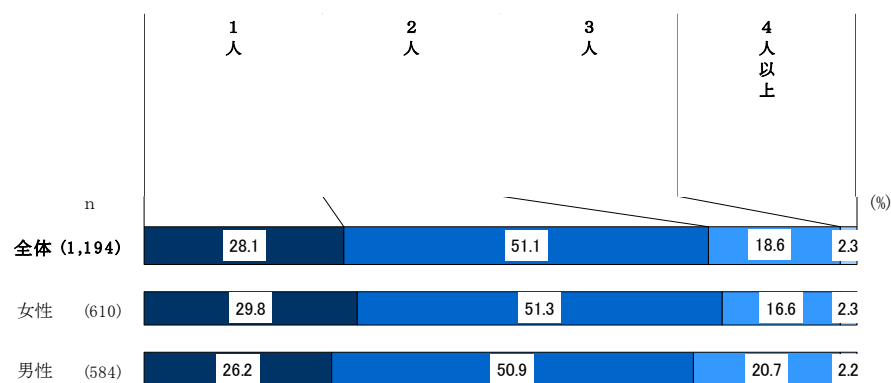


## 【子どもの有無】



## (9) 子どもの人数

- 「(8) 子どもについて」で「子どもがいる」と回答した 1,194 人の子どもの人数を見ると、男女とも「2 人」(女性 51.3%、男性 50.9%) が最も多く、過半数を占めています。

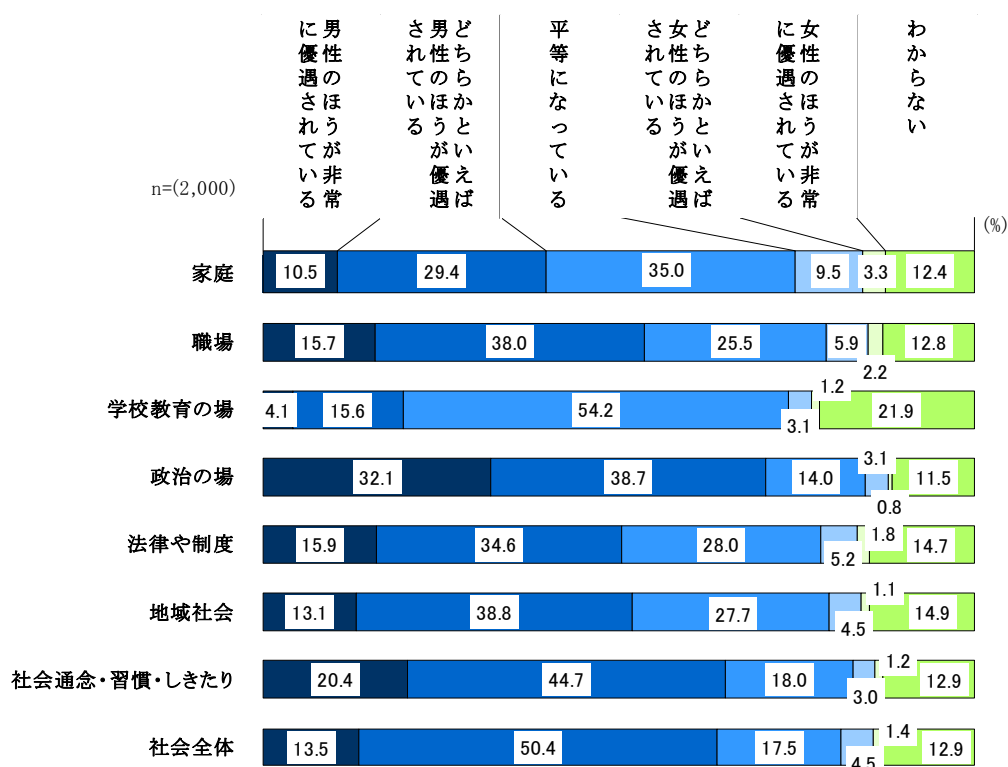


## 2 男女の平等感について

### 男女の地位の平等感（問 10）

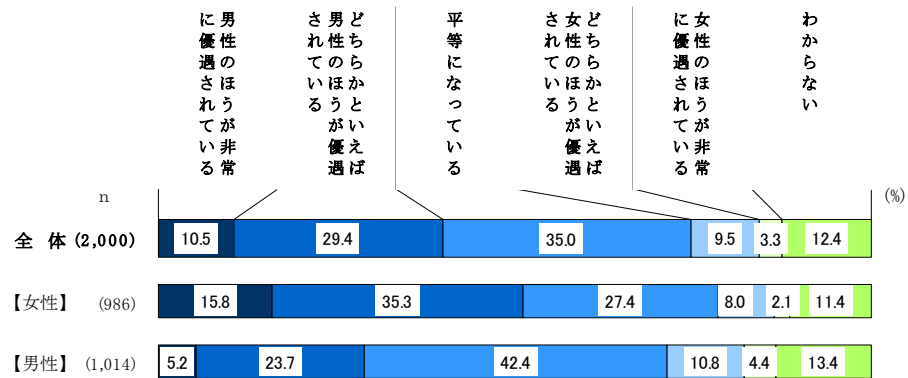
- 「平等になっている」は『学校教育の場』（54.2%）で最も高く、唯一過半数を占めている一方、最も低くなっているのは『政治の場』（14.0%）となっています。
- 性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計は、全ての項目で女性が男性より高くなっており、特に『法律や制度での男女の平等』で女性（64.1%）が男性（37.1%）より 27.0 ポイント高くなっており、男女差が大きくなっています。
- 経年変化を見ると、すべての項目で前回と同程度となっていますが、「平等になっている」は『職場』（25.5%）で令和元年度（23.5%）より 2.0 ポイント、『学校教育の場』（54.2%）で令和元年度（51.3%）より 2.9 ポイント高くなっています。

※「学校教育」等に関する調査結果を読み解く際は、他県と比較しても別学の高等学校が多い群馬県の現状について留意しておく必要があります。





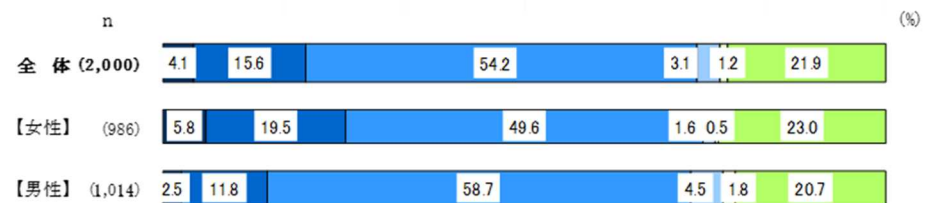
### ① 家庭での男女の平等



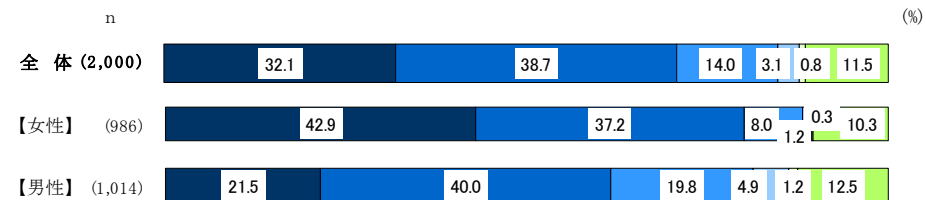
### ② 職場での男女の平等



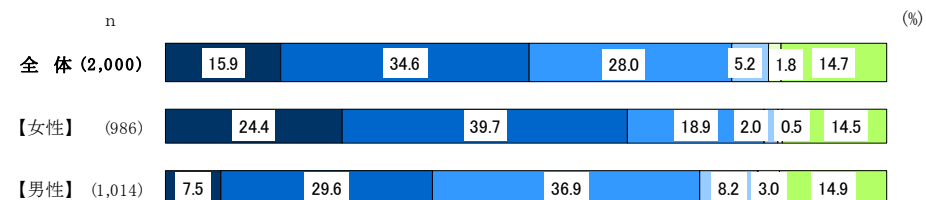
### ③ 学校教育の場での男女の平等



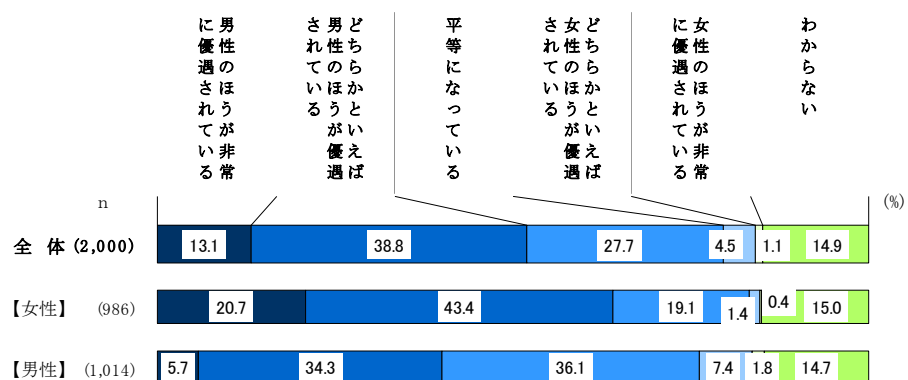
### ④ 政治の場での男女の平等



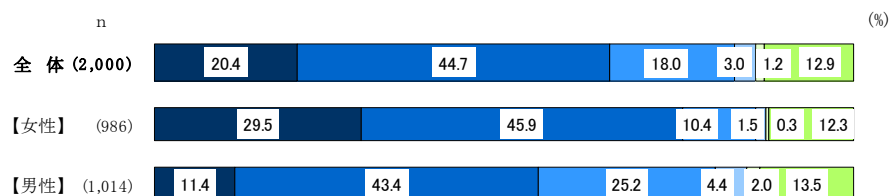
### ⑤ 法律や制度での男女の平等



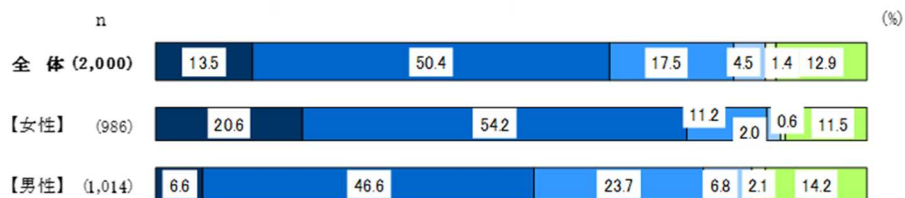
## ⑥ 地域社会での男女の平等



## ⑦ 社会通念・習慣・しきたりにおける男女の平等



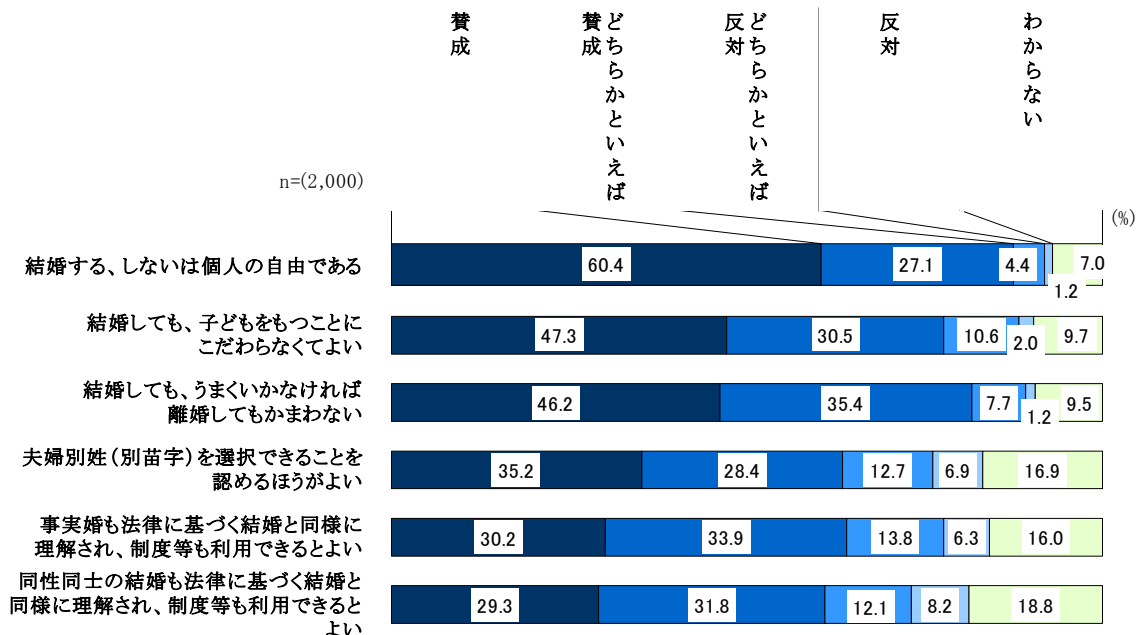
## ⑧ 社会全体での男女の平等



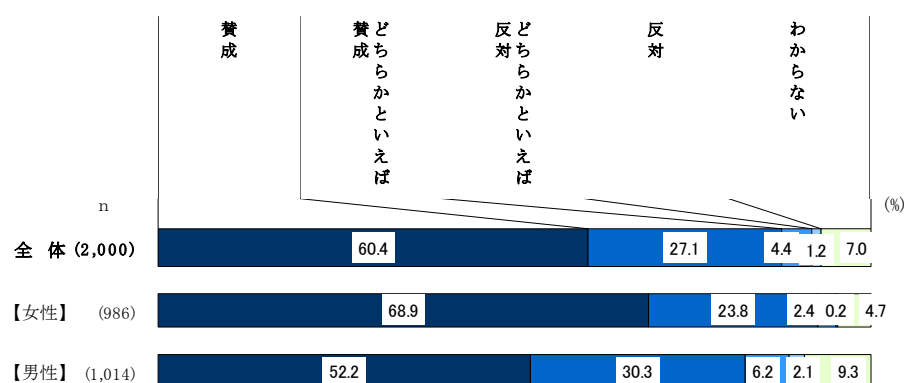
### 3 結婚に関する考え方や家庭内での役割について

#### 結婚に関する考え方（問 11）

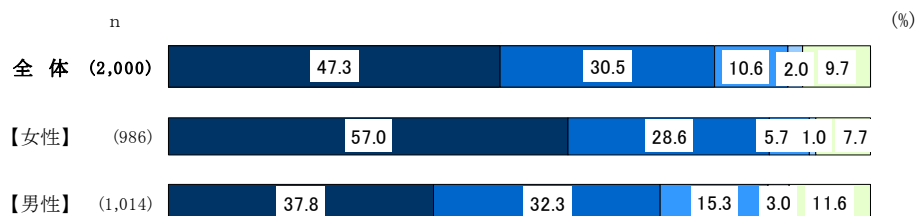
- 「賛成」は『結婚する、しないは個人の自由である』（60.4%）で最も高く、唯一過半数を超えています。一方、最も低くなっているのは『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』（29.3%）となっています。
- 『夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい』、『事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』、『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』といった法制や社会システムに関する項目について、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計（63.6%、64.1%、61.1%）がそれぞれ 6 割を超えていますが、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計（19.6%、20.1%、20.3%）もそれぞれ 2 割前後と比較的高くなっています。
- 性別で見ると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、全ての項目で女性が男性より高くなっており、特に『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』で女性（72.0%）が男性（50.3%）より 21.7 ポイント高くなっており、男女差が大きくなっています。
- 経年変化を見ると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』（81.6%）で令和元年度（79.3%）より 2.3 ポイント高くなっており、『結婚する、しないは個人の自由である』（87.5%）で令和元年度（90.0%）より 2.5 ポイント低くなっています。



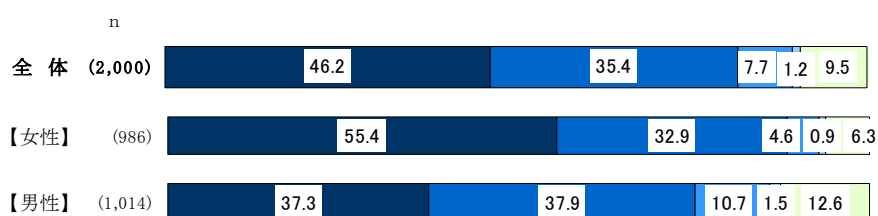
### ① 結婚する、しないは個人の自由である



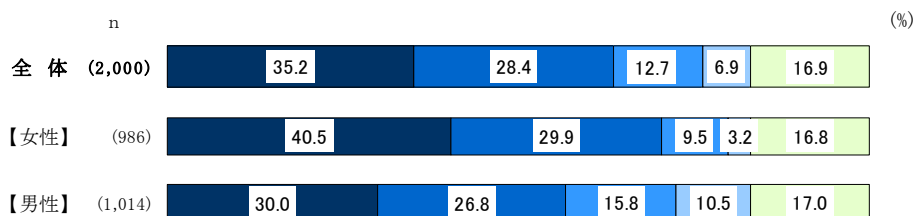
### ② 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい



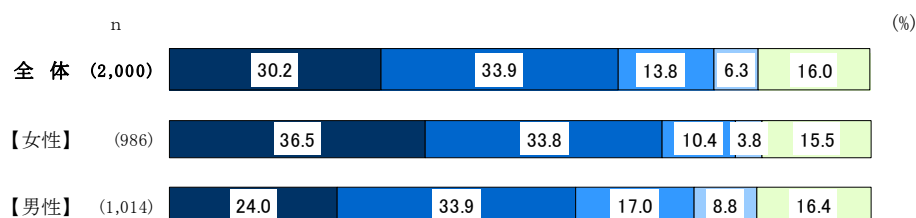
### ③ 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない



### ④ 夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい

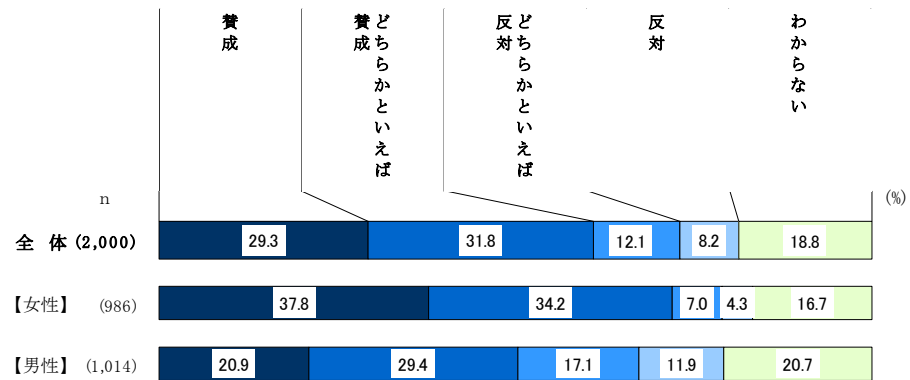


### ⑤ 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい



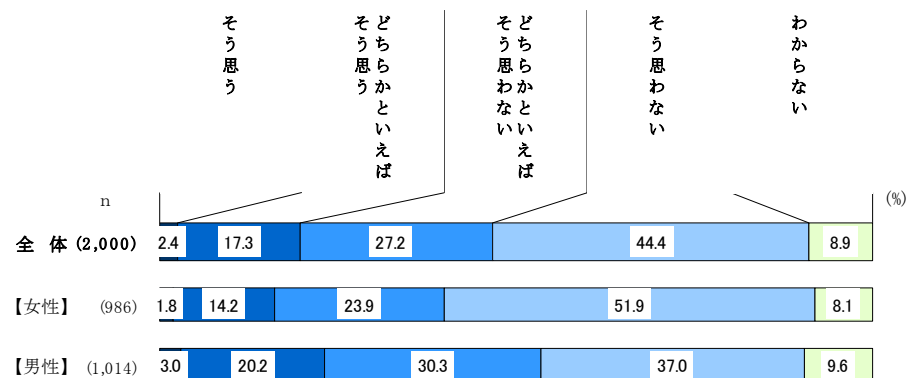
⑥ 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい

.....



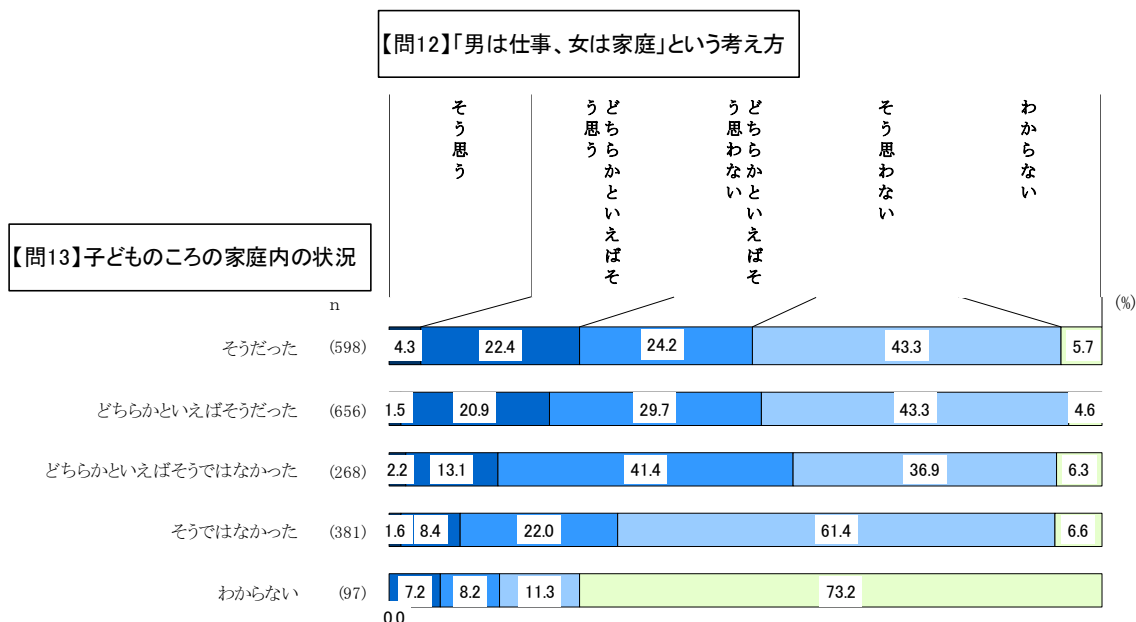
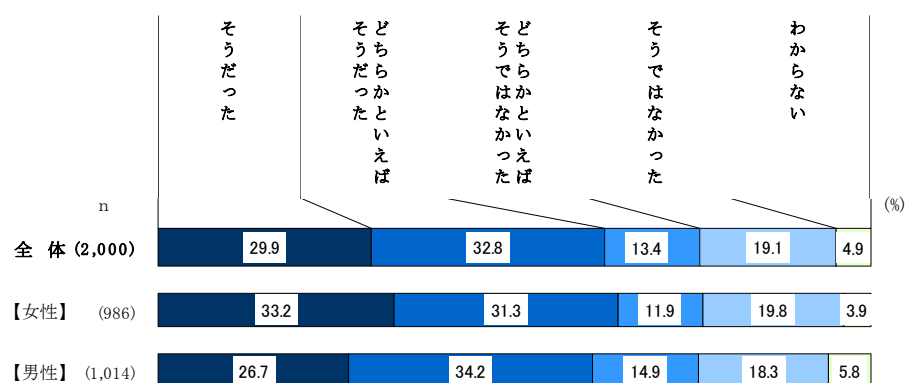
「男は仕事、女は家庭」という考え方（問 12）

- 女性は「そう思わない」（51.9%）が最も高く、「そう思う」（1.8%）が最も低くなっています。男性も「そう思わない」（37.0%）が最も高く、「そう思う」（3.0%）が最も低くなっています。
- 性別で見ると、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計は、女性で約 8 割（75.8%）、男性で約 7 割（67.3%）となっており、女性が男性より 8.5 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計は上昇傾向にあります。（平成 26 年度 65.7%、令和元年度 67.1%、令和 6 年度 71.6%）



### 子どものころの家庭内の状況（問 13）

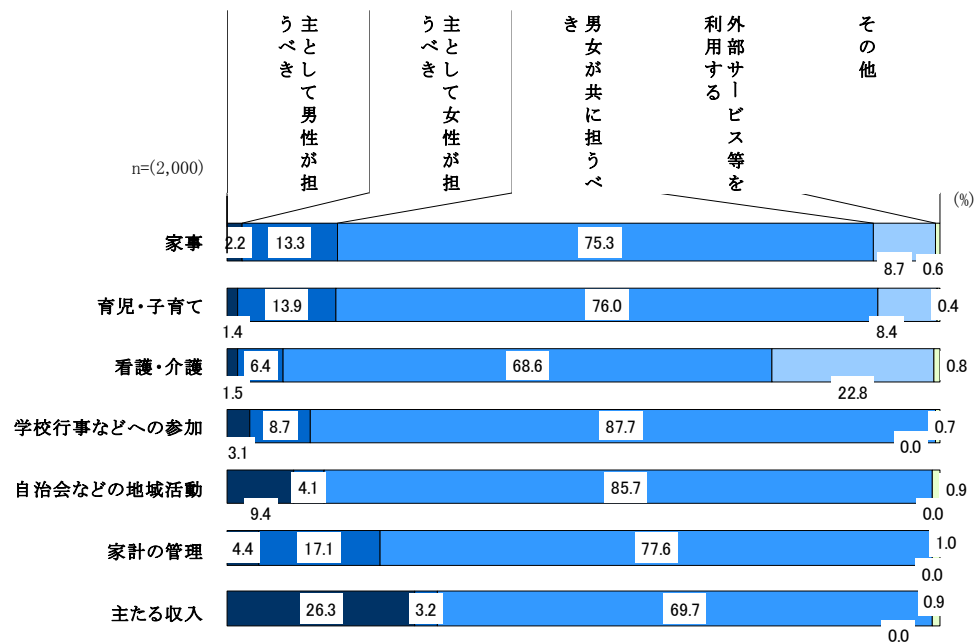
- 子どものころの家庭内状況（問 13）と男は仕事、女は家庭という考え方（問 12）の関係をみると、問 12「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、問 13における「そうだった」で（26.7%）「どちらかといえばそうだった」で（22.4%）となり、他項目と比べて高くなっています。子どものころの家庭環境が成長後の考え方に影響する傾向がみられます。
- 性別で見ると、「そうだった」と「どちらかといえばそうだった」の合計が、男女とも6割以上（女性 64.5%、男性 60.9%）となっています。



## 家庭内の役割分担の理想と現状（問 14・問 15）

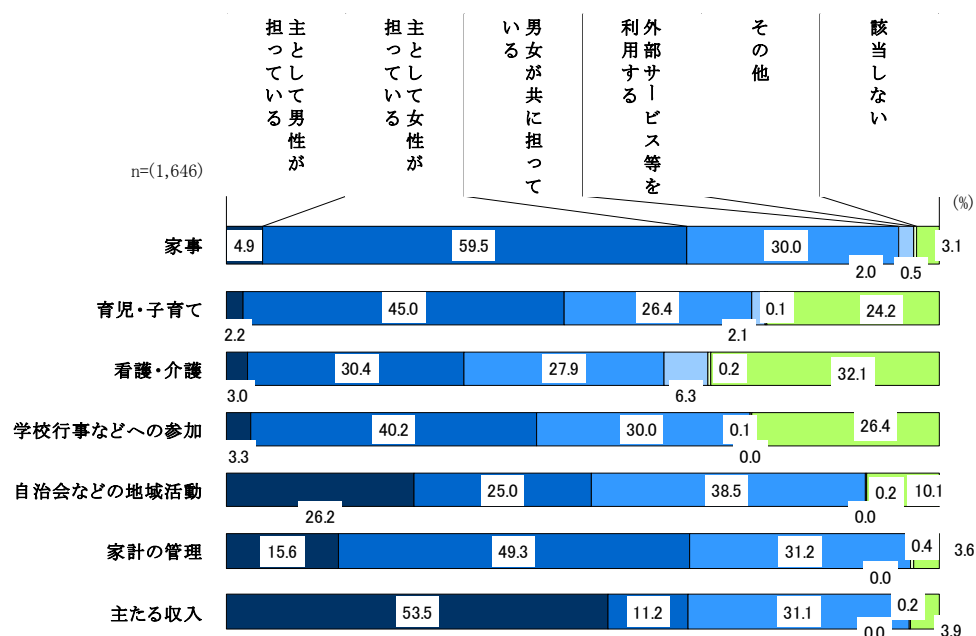
### 【問 14 理想】

- すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く『学校行事などへの参加』（87.7%）、『自治会などの地域活動』（85.7%）では約 9 割となっています。
- 『主たる収入』で「主として男性が担うべき」（26.3%）が約 3 割、『看護・介護』で「外部サービス等を利用する」（22.8%）が 2 割以上と、比較的高くなっています。
- 経年変化を見ると、「男女が共に担うべき」は『主たる収入』（69.7%）で令和元年度（57.2%）より 12.5 ポイント高くなっています。



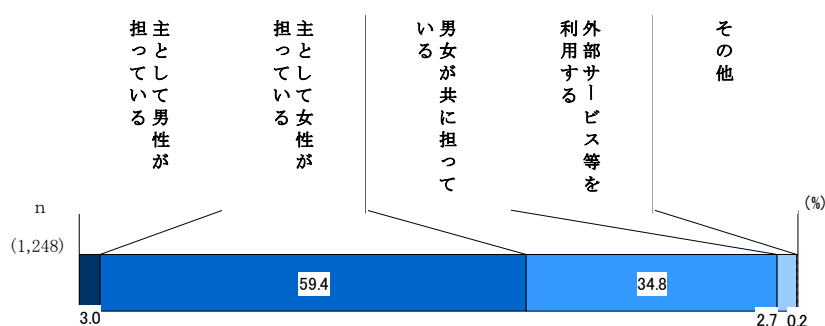
### 【問 15 現状】

- 「男女が共に担っている」が高い項目は『自治会などの地域活動』（38.5%）の1つのみであり、他項目では『主たる収入』を除く全ての項目で「主として女性が担っている」が最も高く、『家事』（59.5%）は約6割と特に高くなっています。
- 『主たる収入』では「主として男性が担っている」（53.5%）が最も高くなっています。また、『看護・介護』で「外部サービス等を利用する」（6.3%）が他項目に比べ比較的高くなっています。
- 経年変化を見ると、「男女が共に担っている」は『学校行事などへの参加』（30.0%）で令和元年度（25.1%）より4.9ポイント高くなっており、他全ての項目で増加傾向がみられます。



### ◇夫婦が同じくらい育児を分担する家庭の割合

- 『育児・子育て』について、「該当しない」を除き、夫婦のみで見ると、「主として女性が担っている」（59.4%）が最も高く、次いで「男女が共に担っている」（34.8%）となっています。





男性の育児・介護休業取得への意識（問 16-1・問 16-3）

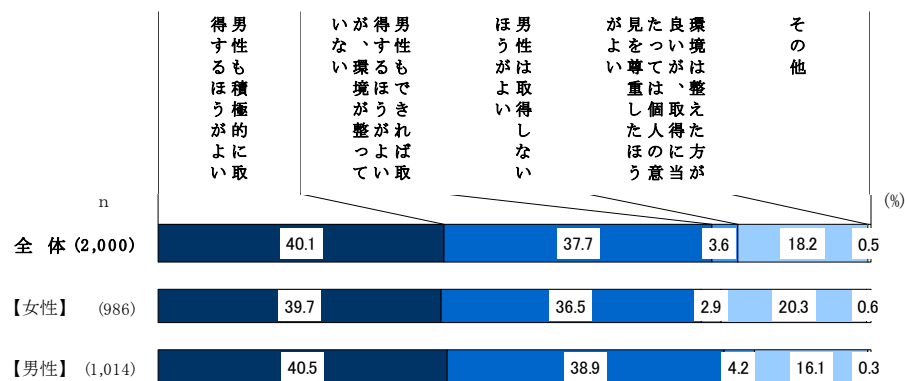
【問 16-1 育児休業】

- 「男性も積極的に取得するほうがよい」（40.1%）が最も高く、次いで「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」（37.7%）、「環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい」（18.2%）となっています。
- 経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は（女性 39.7%、男性 40.5%）で令和元年度（女性 32.1%、男性 33.7%）より女性は 7.6 ポイント、男性は 6.8 ポイントそれぞれ高くなっています。

【問 16-3 介護休業】

- 「男性も積極的に取得するほうがよい」（43.4%）が最も高く、次いで「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」（36.7%）、「環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい」（16.1%）となっています。
- 経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は（女性 47.2%、男性 39.6%）で令和元年度（女性 39.4%、男性 35.9%）より女性は 7.8 ポイント、男性は 3.7 ポイントそれぞれ高くなっています。

【問 16-1 育児休業】



【問 16-3 介護休業】



男性が育児・介護休業を取得しない理由（問 16-2・問 16-4／2 つまで選択可）

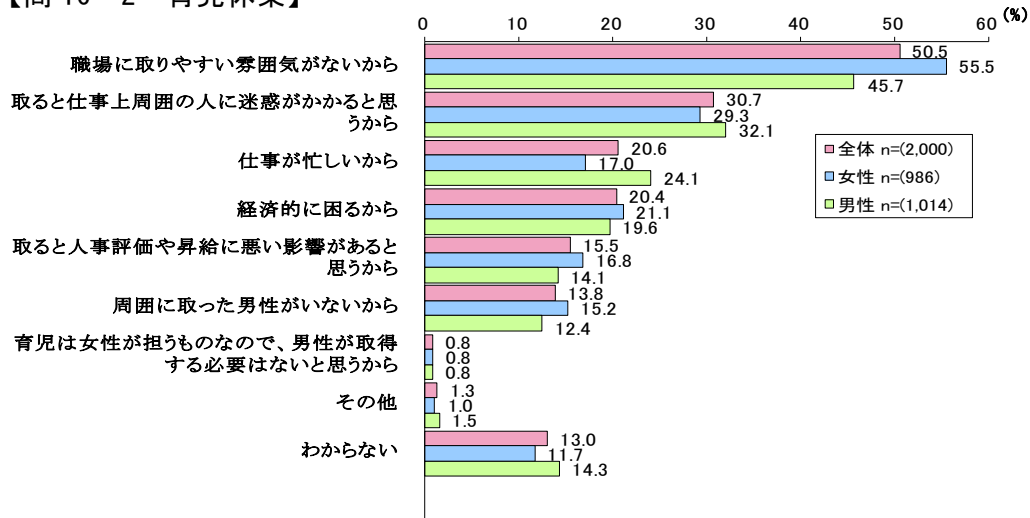
【問 16-2 育児休業】

- 「職場に取りやすい雰囲気がないから」（50.5%）が最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（30.7%）、「仕事が忙しいから」（20.6%）となっています。
- 性別でみると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性（55.5%）が男性（45.7%）より 9.8 ポイント高く、一方で「仕事が忙しいから」は男性（24.1%）が女性（17.0%）より 7.1 ポイント高く、男女で異なる結果となっています。
- 経年変化を見ると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は、令和元年度（女性 64.8%、男性 55.7%）より女性は 9.3 ポイント、男性は 10.0 ポイントそれぞれ低くなっています。一方、「経済的に困るから」（女性 21.1%、男性 19.6%）は、令和元年度（女性 16.7%、男性 20.8%）より女性は 4.4 ポイント高く、男性は 1.2 ポイント低くなっています。

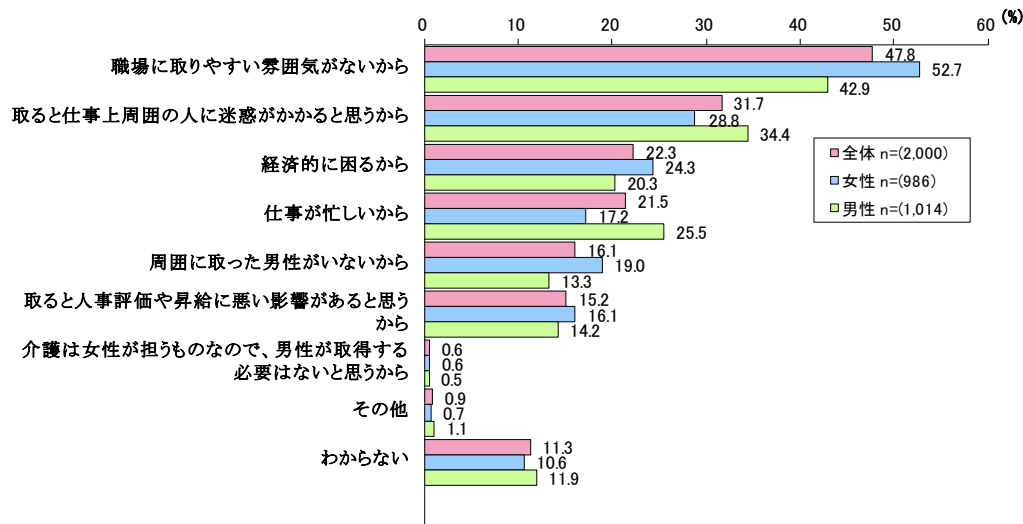
【問 16-4 介護休業】

- 「職場に取りやすい雰囲気がないから」（47.8%）が最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（31.7%）、「経済的に困るから」（22.3%）となっています。
- 性別で見ると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性（52.7%）が男性（42.9%）より 9.8 ポイント高く、一方で「仕事が忙しいから」は男性（25.5%）が女性（17.2%）より 8.3 ポイント高く、男女で異なる結果となっています。
- 経年変化を見ると、「職場に取りやすい雰囲気がないから」は、令和元年度（女性 63.5%、男性 52.9%）より女性は 10.8 ポイント、男性は 10.0 ポイントそれぞれ低くなっています。一方、「経済的に困るから」（女性 24.3%、男性 20.3%）は、令和元年度（女性 21.0%、男性 24.4%）より女性は 3.3 ポイント高く、男性は 4.1 ポイント低くなっています。

【問 16-2 育児休業】



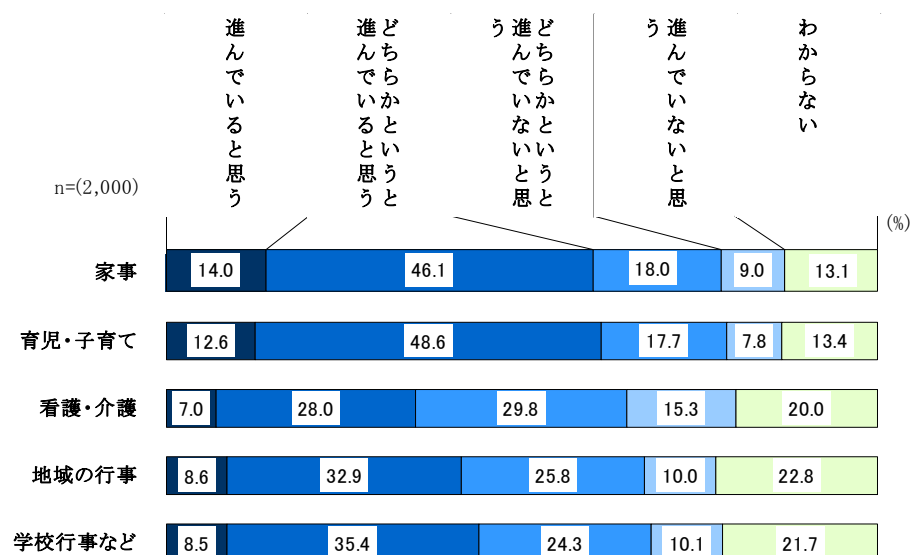
【問 16-4 介護休業】



## 4 男性の参画について

### 男性の参画が進んだ分野（問 17）

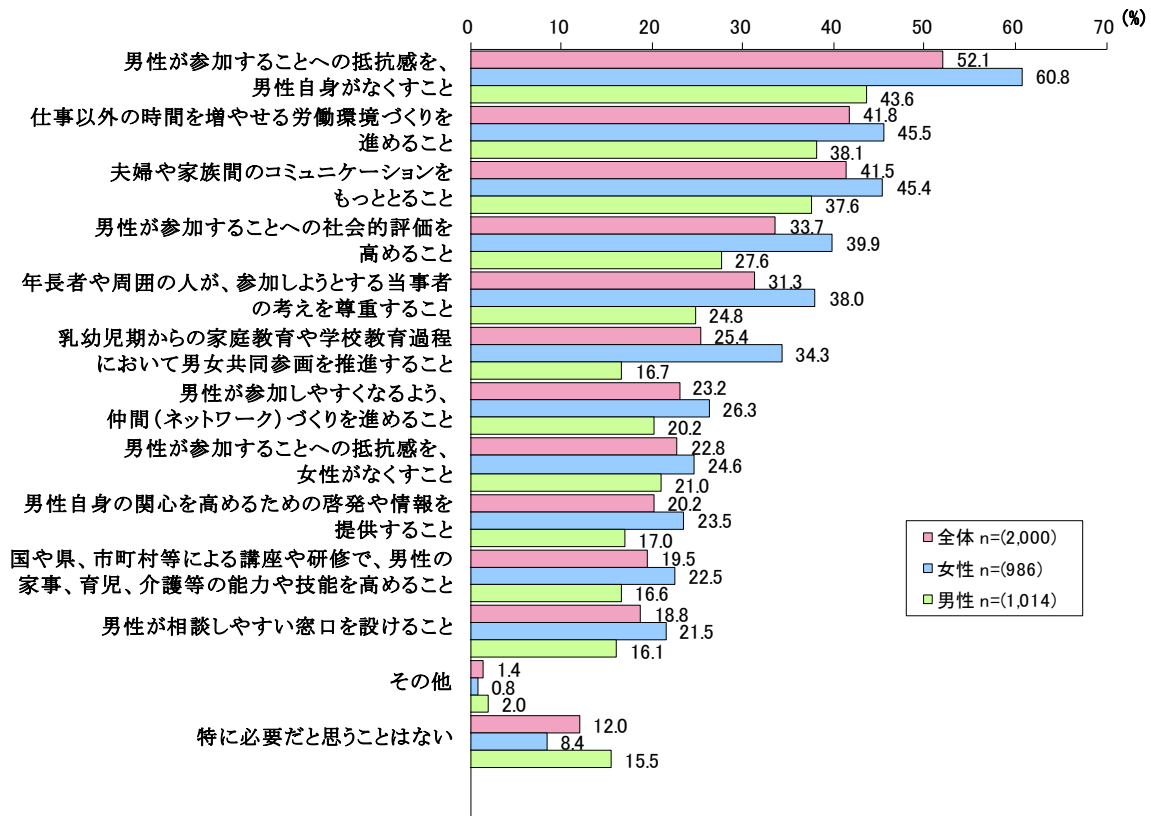
- 「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計は、『育児・子育て』（61.2%）が最も高く、次いで『家事』（60.1%）、『学校行事など』（43.9%）となっています。一方、「進んでいないと思う」と「どちらかというに進んでいないと思う」の合計は、『看護・介護』（45.1%）が最も高くなっています。
- 経年変化を見ると、「進んでいないと思う」と「どちらかというに進んでいないと思う」の合計は『学校行事など』（34.4%）が令和元年度（41.3%）より 6.9 ポイント低くなっています。



### 男性の参画に必要なこと（問 18／複数選択可）

- 「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」（52.1%）が最も高く、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」（41.8%）、「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」（41.5%）となっています。
- 性別で見ると、「その他」、「特に必要だと思うことはない」を除くすべての項目で、女性が男性より高くなっています。
- 経年変化を見ると、「特に必要だと思うことはない」は（12.0%）で令和元年度（8.7%）より 3.3 ポイント高くなっており、その他全ての項目で減少傾向がみられます。

【問 18】



## 5 職場や働き方について

### 「女性の働き方」への意識（問 19）

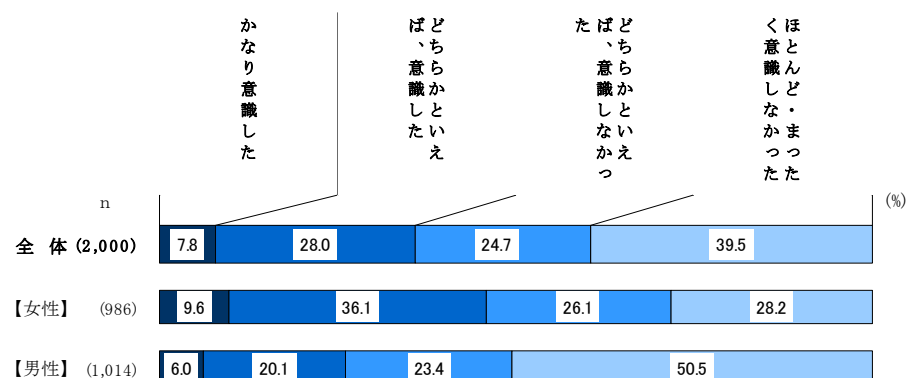
●「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」（27.8%）が最も高く、次いで「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」（27.2%）、「子どもができた雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」（15.6%）となっています。

●性別で見ると、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」は女性（31.7%）が男性（24.0%）より 7.7 ポイント高くなっており、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」は女性（27.1%）と男性（27.2%）が同程度となっています。



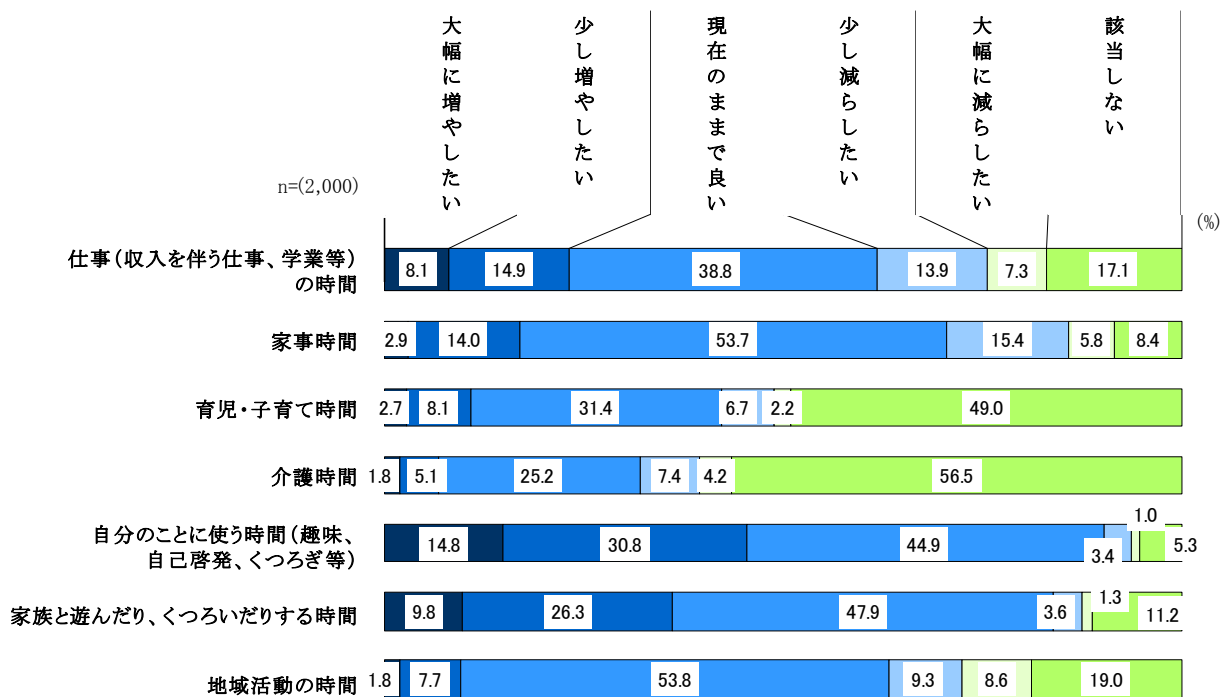
### 進路・職業選択の際の性別意識（問 20）

- 女性は「どちらかといえば、意識した」（36.1%）が最も高く、男性は「ほとんど・まったく意識しなかった」（50.5%）が過半数を超えています。
- 性別で見ると、「かなり意識した」と「どちらかといえば、意識した」の合計は、女性（45.7%）が男性（26.1%）より 19.6 ポイント高くなっており、女性が男性を大きく上回っています。
- 経年変化を見ると、「かなり意識した」と「どちらかといえば、意識した」の合計は、男女ともに前回と同程度となっています。

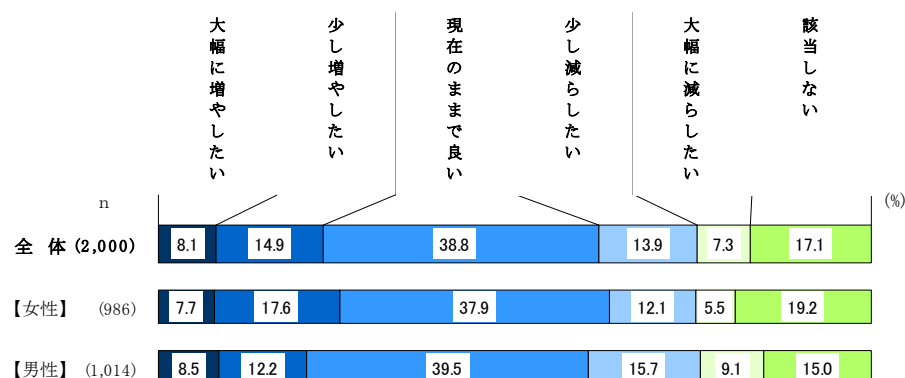


## 「仕事」「家庭生活」「地域活動」等の時間についての希望（問 21）

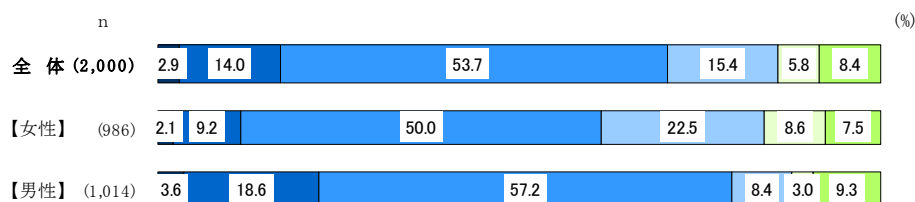
- 『育児・子育て時間』と『介護時間』を除き、「現在のままで良い」が最も高くなっています。
- 「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計は『自分のことに使う時間（趣味、自己啓発、くつろぎ等）』（45.6%）、『家族と遊んだり、くつろいだりする時間』（36.1%）が他項目と比べて高くなっています。
- 性別で見ると、『家事時間』で、「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計は男性（22.2%）が女性（11.3%）より 10.9 ポイント高く、「大幅に減らしたい」と「少し減らしたい」の合計は女性（31.1%）が男性（11.4%）より 19.7 ポイント高くなっており、男女で異なる結果となっています。



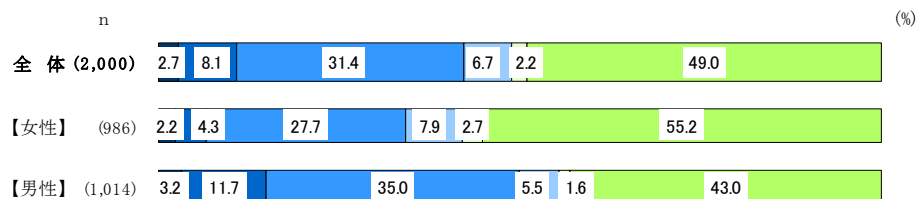
## ① 仕事（収入を伴う仕事、学業等）の時間



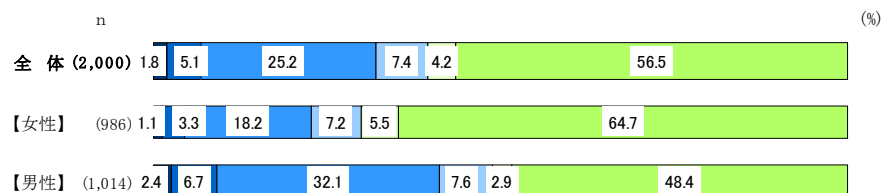
## ② 家事時間



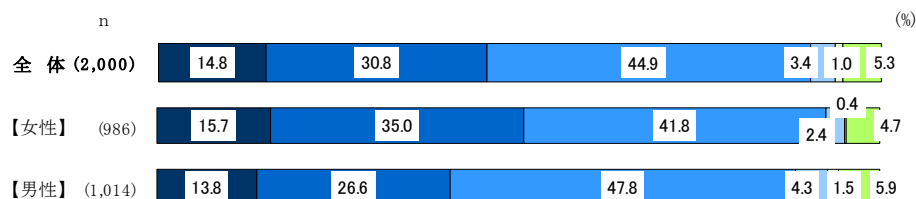
## ③ 育児・子育て時間



## ④ 介護時間

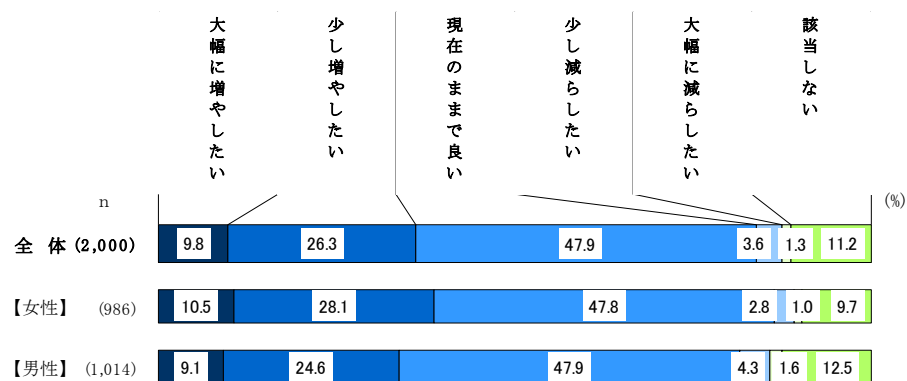


## ⑤ 自分のことに使う時間（趣味、自己啓発、くつろぎ等）

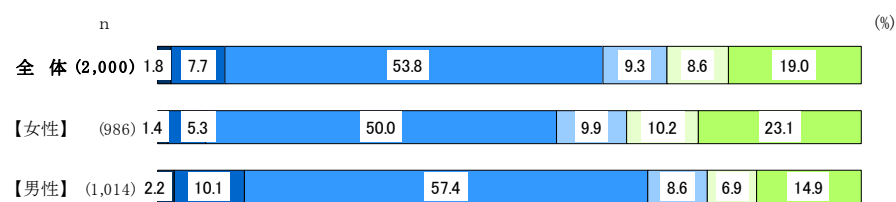




## ⑥ 家族と遊んだり、くつろいだりする時間



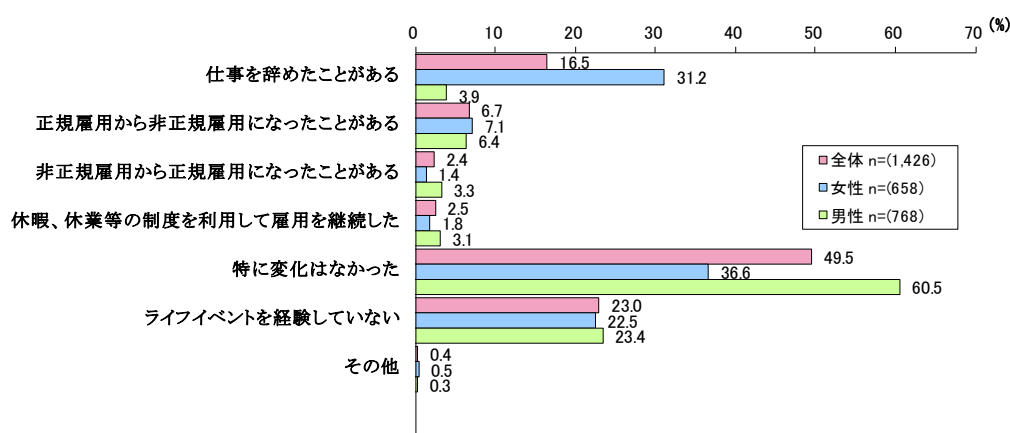
## ⑦ 地域活動の時間



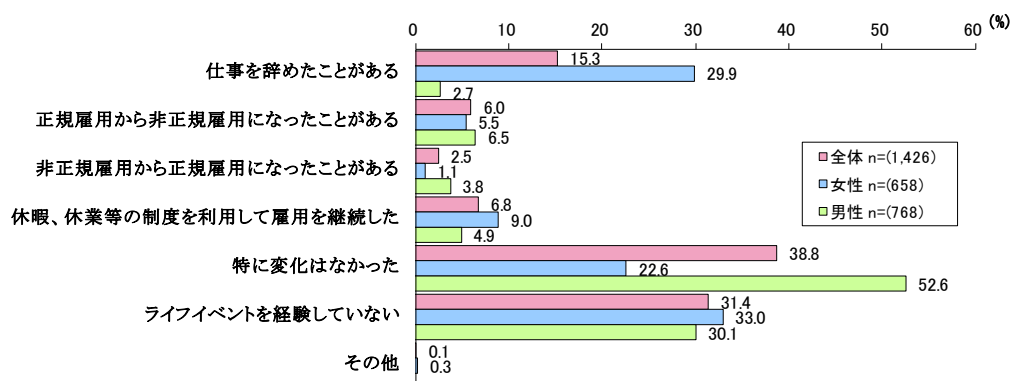
## 現在働いている人のこれまでの働き方（問 22-1）

- 『介護』を除き、「特に変化がなかった」が最も高くなっています。
- 『介護』を除き、「仕事を辞めたことがある」が高く、特に『結婚』（16.5%）、『出産（ご自身または配偶者の出産）』（15.3%）がそれぞれ約 2 割と高くなっています。
- 性別で見ると、すべての項目で「仕事を辞めたことがある」は女性が男性より高くなっています。特に、『結婚』（女性 31.2%、男性 3.9%）は 27.3 ポイント、『出産（ご自身または配偶者の出産）』（女性 29.9%、男性 2.7%）は 27.2 ポイント、『育児・子育て』（女性 21.1%、男性 3.0%）は 18.1 ポイント、女性の方が高くなっています。

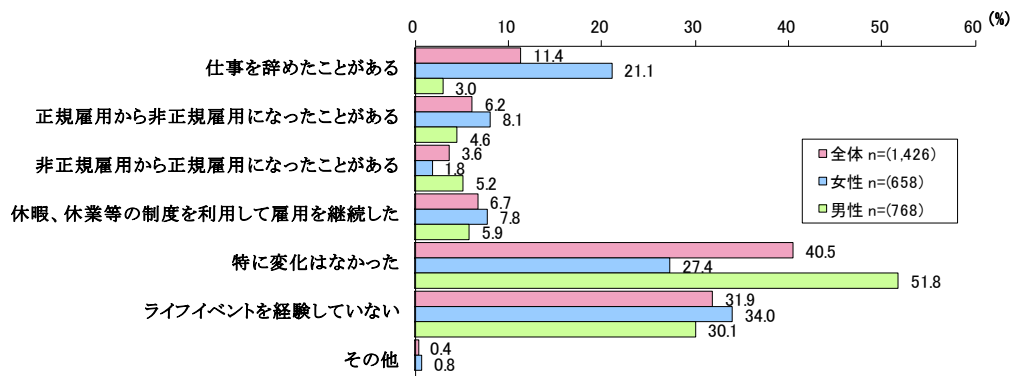
### 【①結婚】



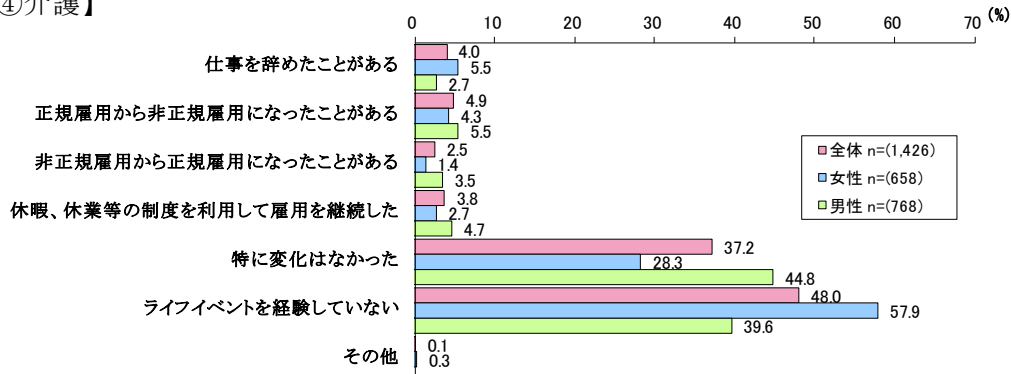
### 【②出産（ご自身または配偶者の出産）】



### 【③育児・子育て】



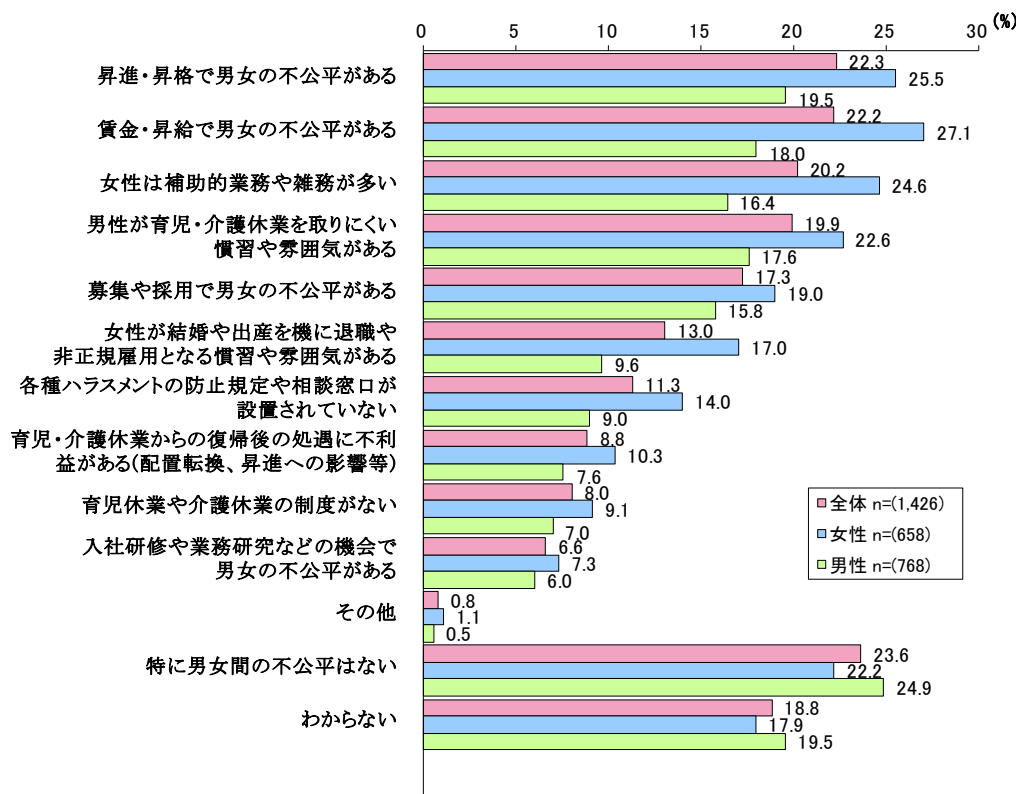
【④介護】



職場における男女間の不公平・未整備の状況（問 22-2／複数選択可）

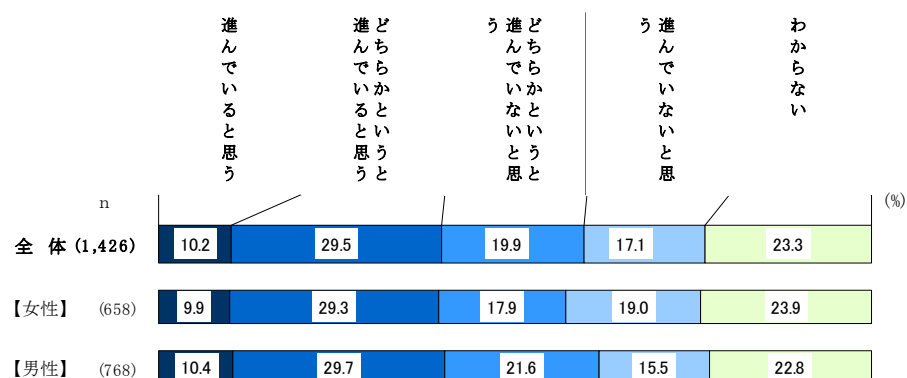
- 「昇進・昇格で男女の不公平がある」（22.3%）が最も高く、次いで、「賃金・昇給で男女の不公平がある」（22.2%）、「女性は補助的業務や雑務が多い」（20.2%）となっています。
- 性別で見ると、男女差は「賃金・昇給で男女の不公平がある」で最も大きく、女性（27.1%）が男性（18.0%）より 9.1 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「入社研修や業務研究などの機会での男女の不公平がある」、「わからない」を除くその他全ての項目で減少傾向がみられます。特に、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が令和元年度（27.4%）より 7.5 ポイント低くなっています。

【問 22-2】



### 職場における女性の採用・管理職への登用状況（問 22-3）

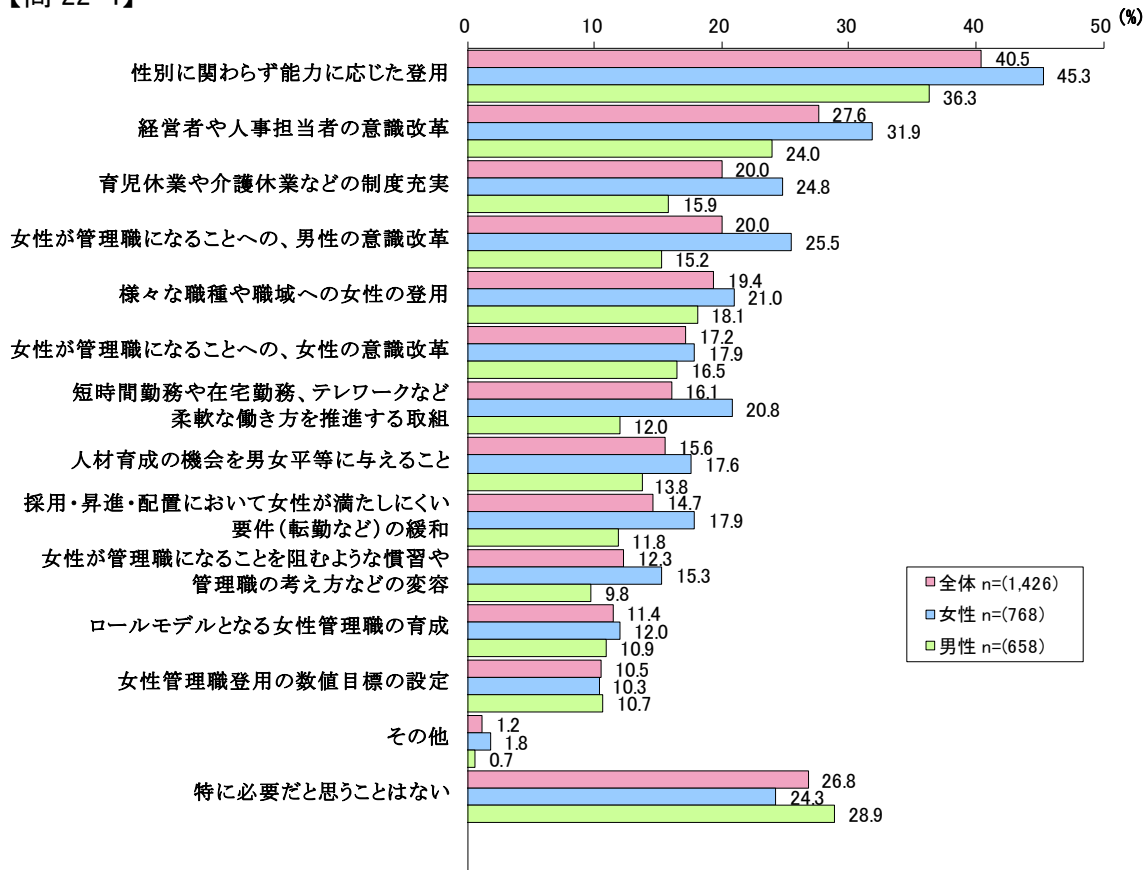
- 「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計（39.7%）に対して、「進んでいないと思う」と「どちらかというに進んでいないと思う」の合計（37.0%）と同程度の数値になっています。なお、性別で見ても、同様の傾向となっています。
- 経年変化を見ると、「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計は（39.7%）で令和元年度（33.9%）より 5.8 ポイント高くなっています。



### 職場で女性の管理職への登用に必要なこと（問 22-4／複数選択可）

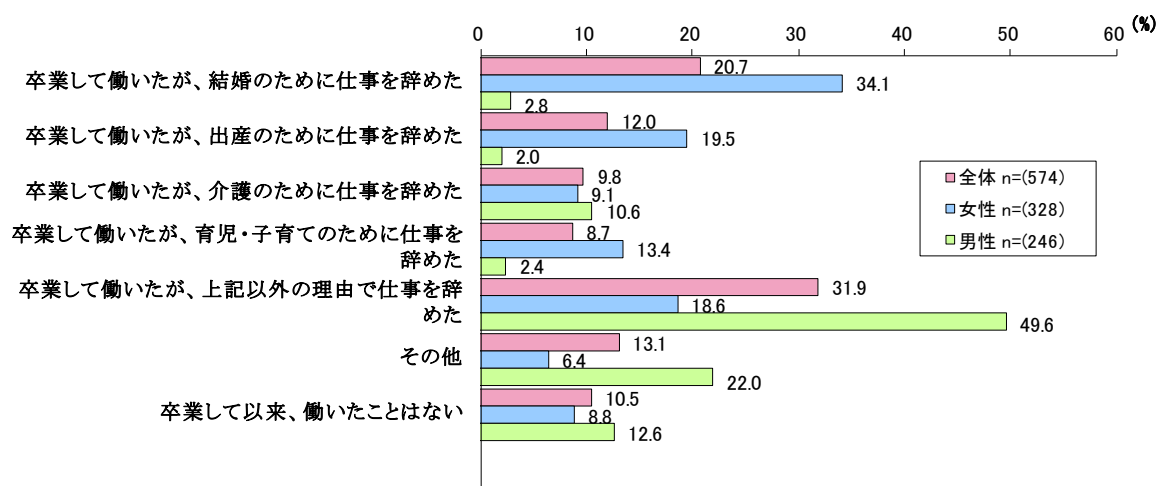
- 「性別に関わらず能力に応じた登用」（40.5%）が最も高く、次いで「経営者や人事担当者の意識改革」（27.6%）、「育児休業や介護休業などの制度充実」「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」（いずれも 20.0%）となっています。
- 性別で見ると、「女性管理職登用の数値目標の設定」は女性（10.3%）が男性（10.7%）より 0.4 ポイント、「特に必要だと思うことはない」は女性（24.3%）が男性（28.9%）より 4.6 ポイント低くなっていますが、他全ての項目で女性が男性を上回っています。また、男女差は、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」で最も大きく、女性（25.5%）が男性（15.2%）より 10.3 ポイント高くなっています。

【問 22-4】



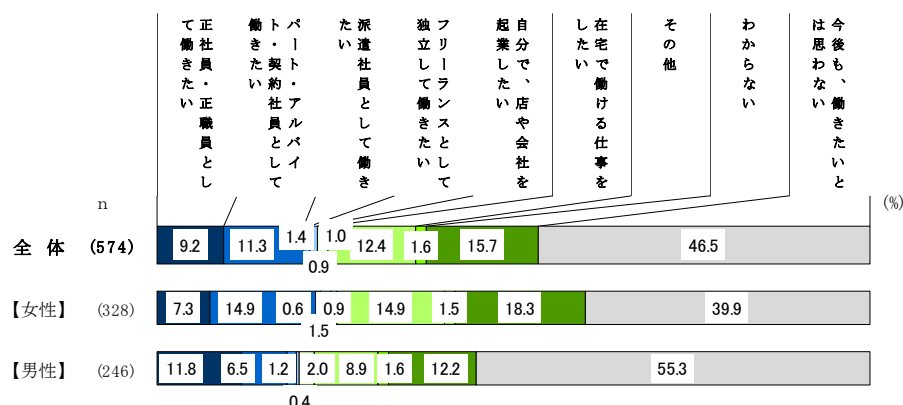
### 現在働いていない人のこれまでの働き方（問 23-1）

- 「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」（31.9%）が最も高く、次いで「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」（20.7%）、「その他」（13.1%）となっています。
- 性別で見ると、男性は「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」が最も高く、男性（49.6%）が女性（18.6%）より 31.0 ポイント高くなっています。女性は「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」が最も高く、女性（34.1%）が男性（2.8%）より 31.3 ポイント高くなっています。



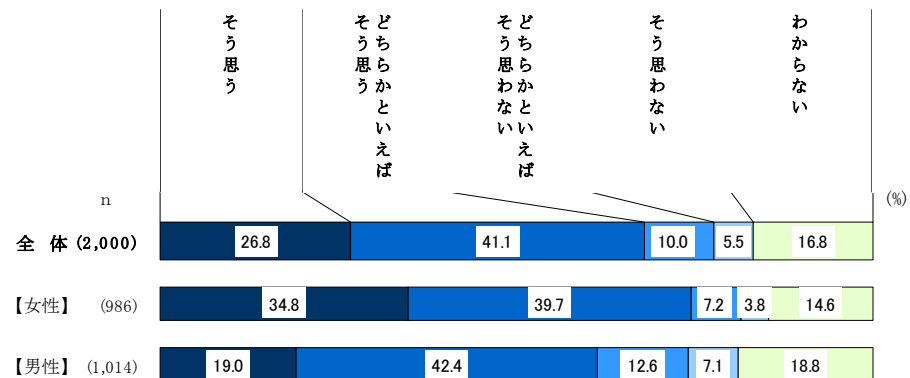
### 現在働いていない人の今後の働く意向（問 23-2）

- 「今後も、働きたいとは思わない」（46.5%）が最も高く、次いで「わからない」（15.7%）、「在宅で働ける仕事をしたい」（12.4%）となっています。
- 性別で見ると、「今後も、働きたいとは思わない」は男性（55.3%）が女性（39.9%）より 15.4 ポイント高くなっており、「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」は女性（14.9%）が男性（6.5%）より 8.4 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「正社員・正職員として働きたい」「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」「派遣社員として働きたい」「フリーランスとして働きたい」「自分で、店や会社を起業したい」「在宅で働ける仕事をしたい」の合計は（全体 36.2%、女性 40.1%、男性 30.8%）で令和元年度（全体 51.3%、女性 56.0%、男性 43.6%）より、全体は 15.1 ポイント、女性は 15.9 ポイント、男性は 12.8 ポイントそれぞれ低くなっています。



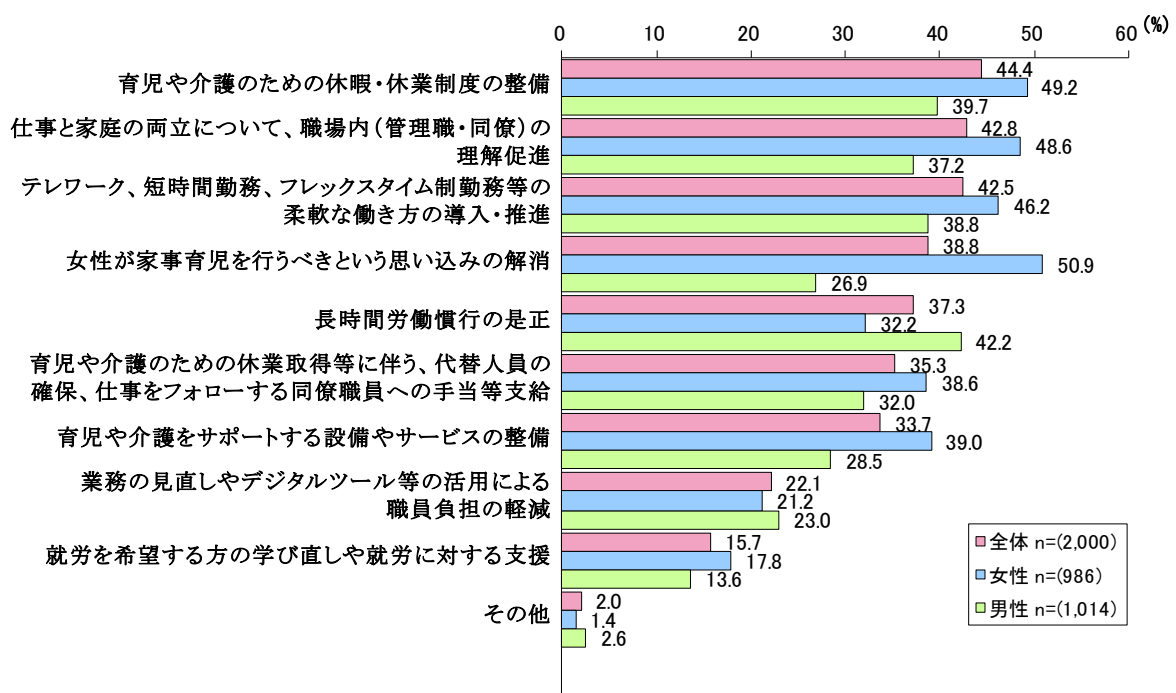
### 育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍（問 24－1）

- 「どちらかといえばそう思う」（41.1%）が最も高くなっており、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は（67.9%）となります。
- 性別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、女性（74.5%）が男性（61.4%）より 13.1 ポイント高くなっており、女性が男性を大きく上回っています。



### 女性が活躍するために必要な支援（問 24－2）

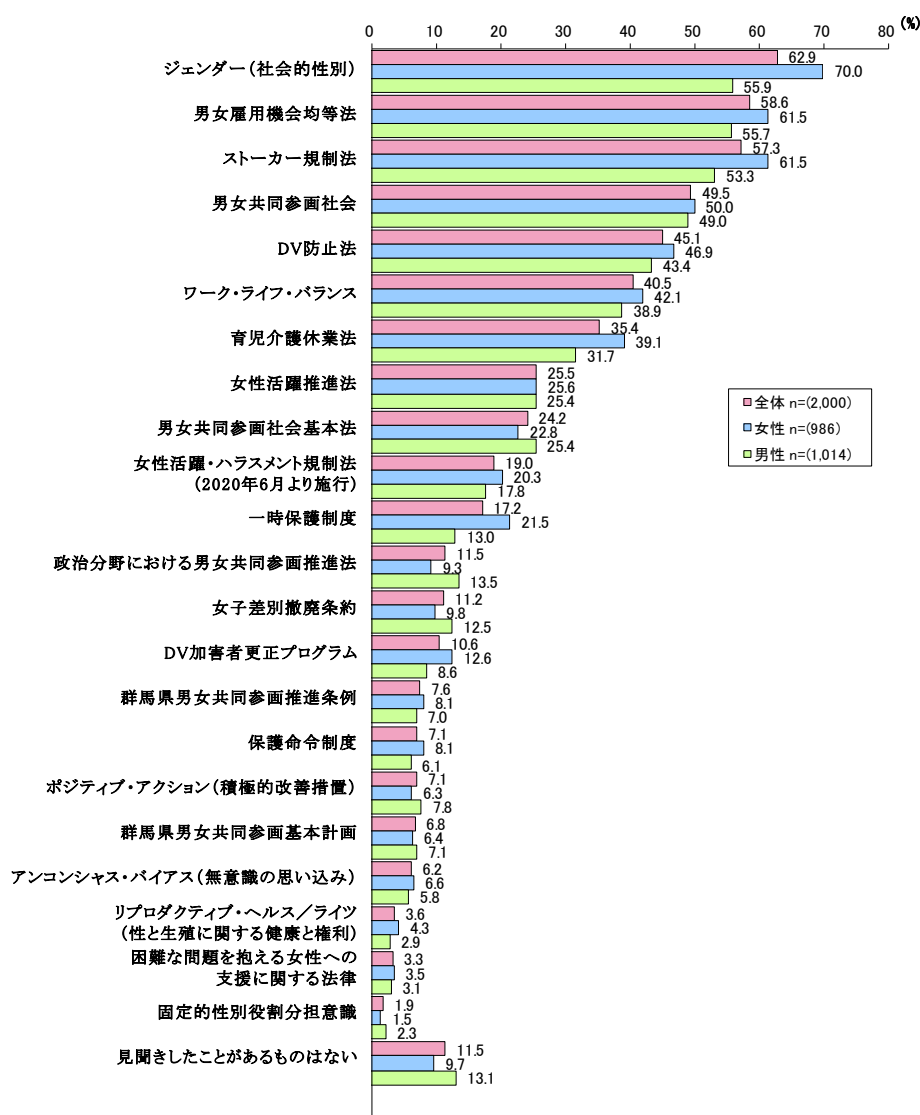
- 「育児や介護のための休暇・休業制度の整備」（44.4%）が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進」（42.8%）、「テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進」（42.5%）となっています。
- 性別で見ると、女性は「女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消」（50.9%）が最も高く、男性は「長時間労働慣行の是正」（42.2%）が最も高くなっています。



## 6 男女共同参画社会づくりのための施策について

### 男女共同参画に関連する事項の認知度（問 25／複数選択可）

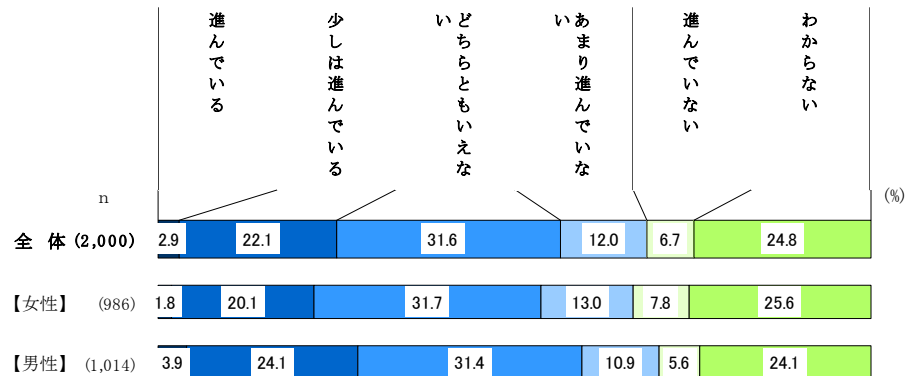
- 「ジェンダー（社会的性別）」（62.9%）が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」（58.6%）、「ストーカー規制法」（57.3%）となっています。
- 性別を見ると、「ジェンダー（社会的性別）」は、女性（70.0%）が男性（55.9%）より 14.1 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「ジェンダー（社会的性別）」は（62.9%）で令和元年度（52.6%）より 10.3 ポイント、「男女雇用機会均等法」は（58.6%）で令和元年度（57.5%）より 1.1 ポイント「男女共同参画社会」は（49.5%）で令和元年度（47.5%）より 2.0 ポイント高くなっています。





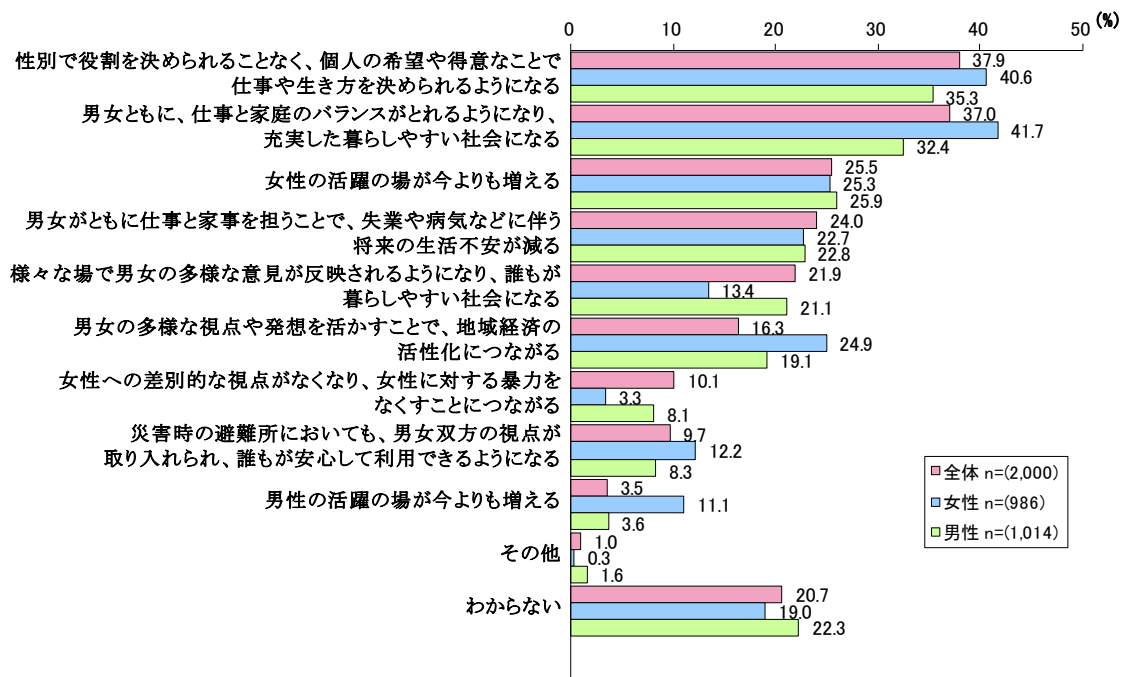
### 男女共同参画社会づくりの実感（問 26）

- 性別で見ると、「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計は、男性（28.0%）が女性（21.9%）より 6.1 ポイント高くなっており、反対に「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、男性（16.5%）が女性（20.8%）より 4.3 ポイント低くなっています。
- 経年変化を見ると、「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計は（25.0%）で令和元年度（25.4%）と同程度となっています。



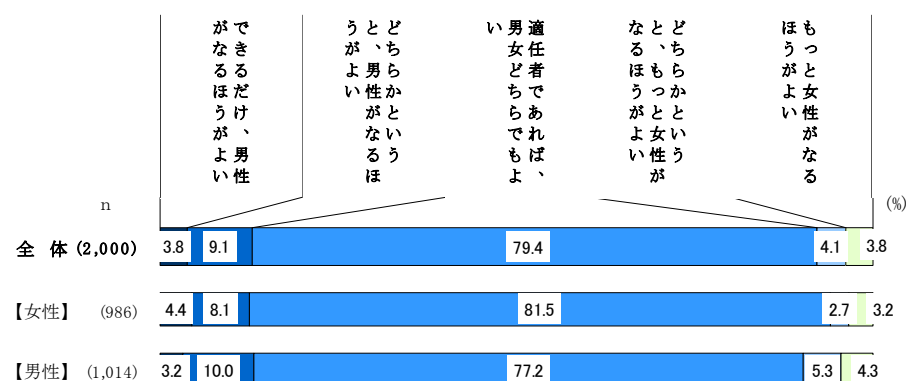
### 男女共同参画の社会づくりによって生じる変化や効果（問 27／複数選択可）

- 「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(37.9%) が最も高く、次いで「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(37.0%)、「女性の活躍の場が今よりも増える」(25.5%) となっています。
- 性別で見ると、「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」が女性（41.7%）は最も高く、男性（32.4%）より 9.3 ポイント高くなっています。



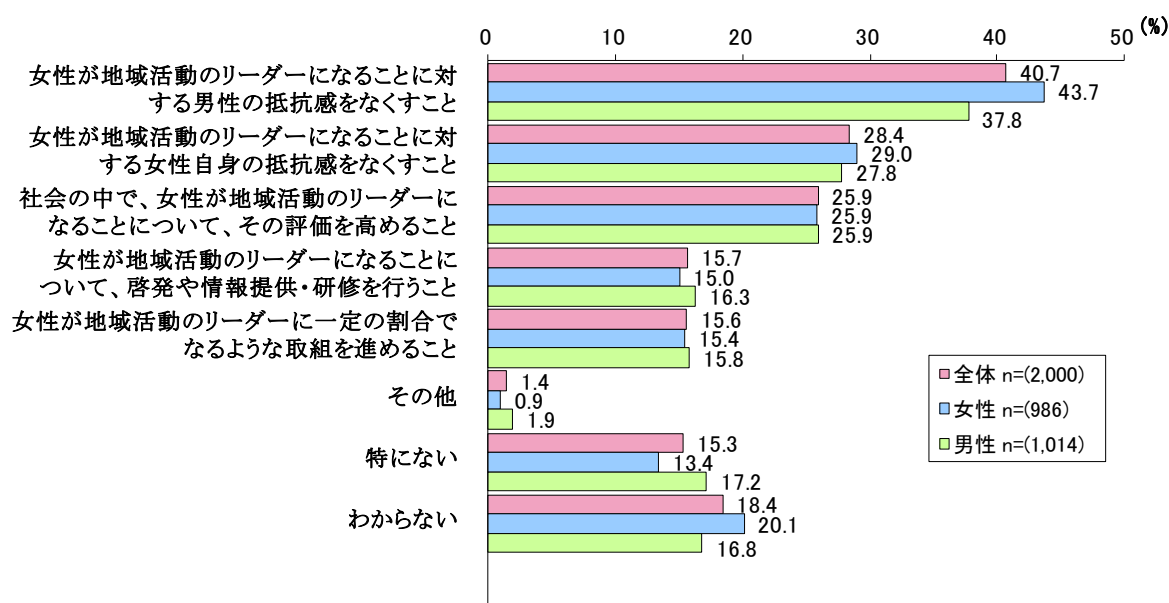
### 地域活動にかかわるリーダーの性別意識（問 28）

- 「適任者であれば、男女どちらでもよい」（女性 81.5%、男性 77.2%）が男女ともに最も高く、それぞれ 8 割前後となっています。
- 経年変化を見ると、「適任者であれば、男女どちらでもよい」は（79.4%）で令和元年度（78.6%）より 0.8 ポイント高くなっています。



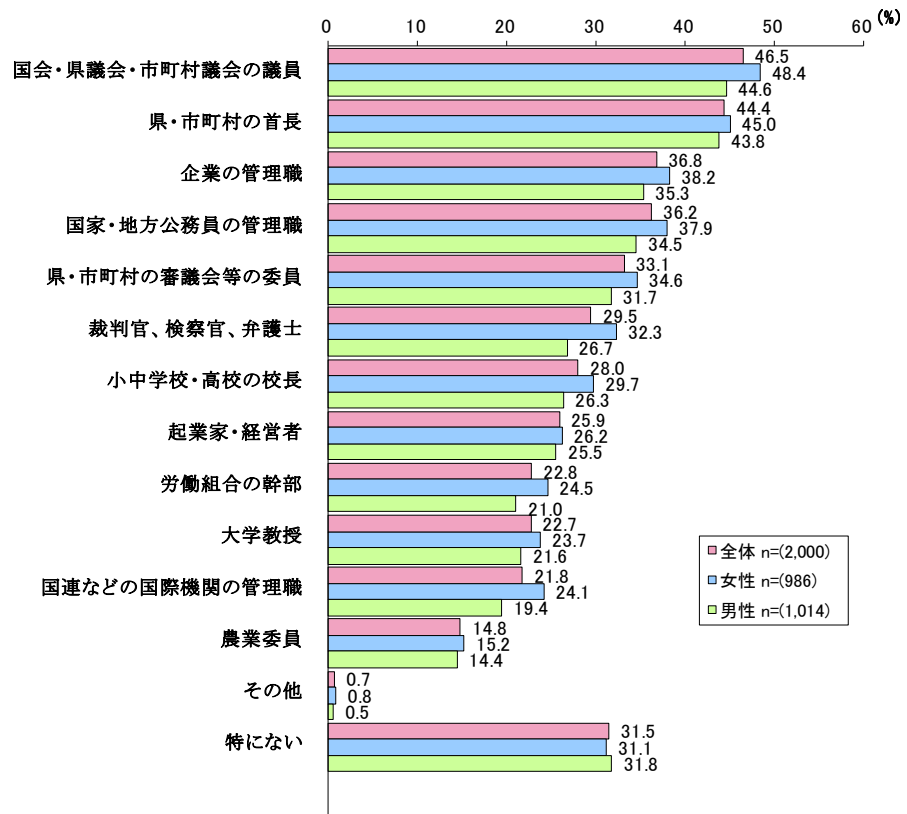
### 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと（問 29／複数選択可）

- 「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（40.7%）が最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」（28.4%）、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」（25.9%）となっています。
- 性別で見ると、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」は、女性（43.7%）が男性（37.8%）より 5.9 ポイント高くなっています。



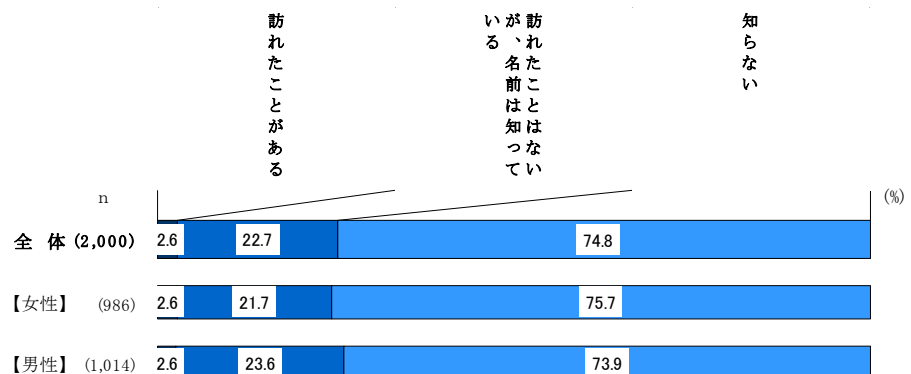
女性が増えると思う役職・職業（問 30／複数選択可）

- 「国会・県議会・市町村議会の議員」（46.5%）が最も高く、次いで「県・市町村の首長」（44.4%）、「企業の管理職」（36.8%）となっています。
- 性別で見ると、「特にない」を除く全ての項目で女性が男性より高くなっています。
- 経年変化を見ると、「起業家・経営者」は（25.9%）で令和元年度（36.5%）より 10.6 ポイント低くなっており、他全ての項目で減少傾向がみられます。



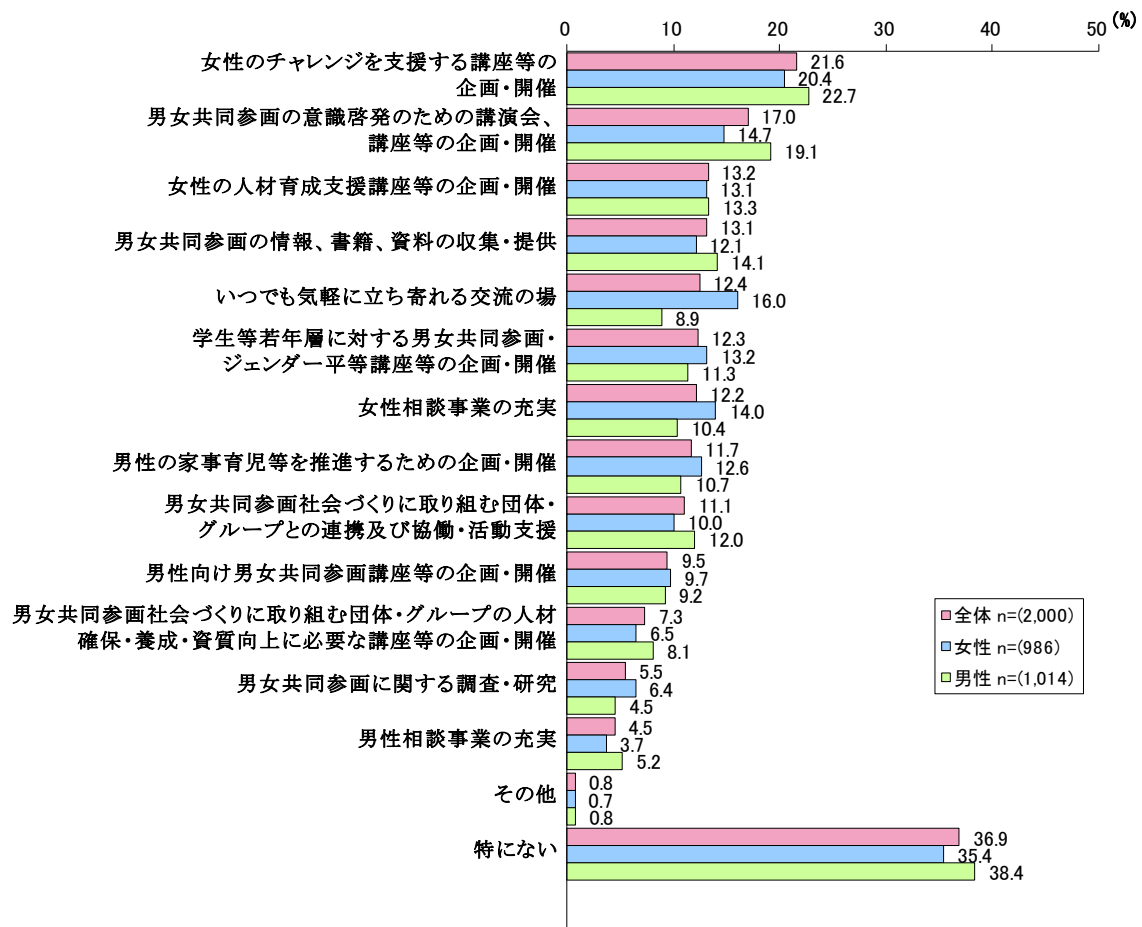
「ぐんま男女共同参画センター」の認知度（問 31）

- 性別で見ると、「知らない」は女性（75.7%）と男性（73.9%）が同程度となっています。
- 経年変化を見ると、「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計は（25.3%）で令和元年度（23.0%）と同程度となっています。



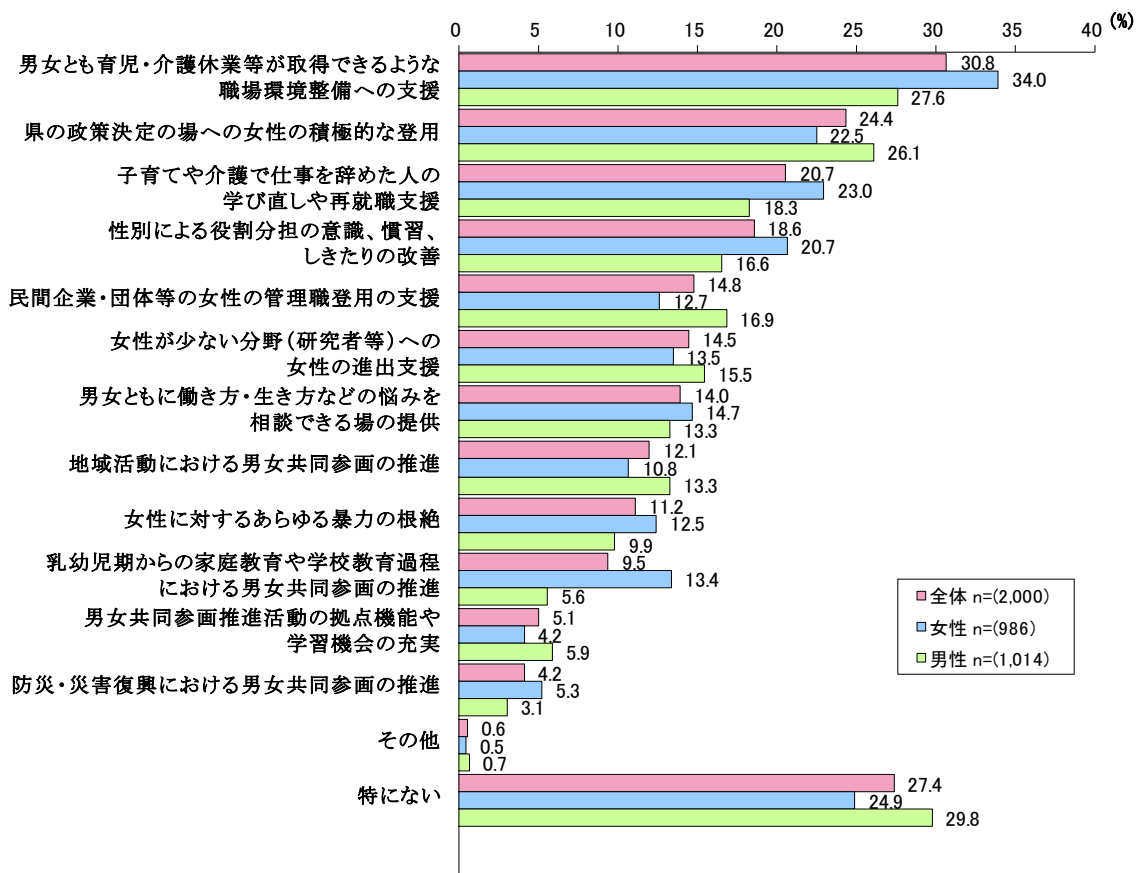
「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割（問 32／3 つまで選択可）

- 「特にない」（36.9％）が最も高く、次いで「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」（21.6％）、「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」（17.0％）となっています。
- 性別で見ると、「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」は女性（16.0％）が男性（8.9％）より 7.1 ポイント高くなっています。



男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと（問 33／3 つまで選択可）

- 「特にない」を除き「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」（30.8%）が最も高く、次いで「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」（24.4%）、「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」（20.7%）となっています。
- 性別で見ると、「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進」は女性（13.4%）が男性（5.6%）より 7.8 ポイント高くなっています。



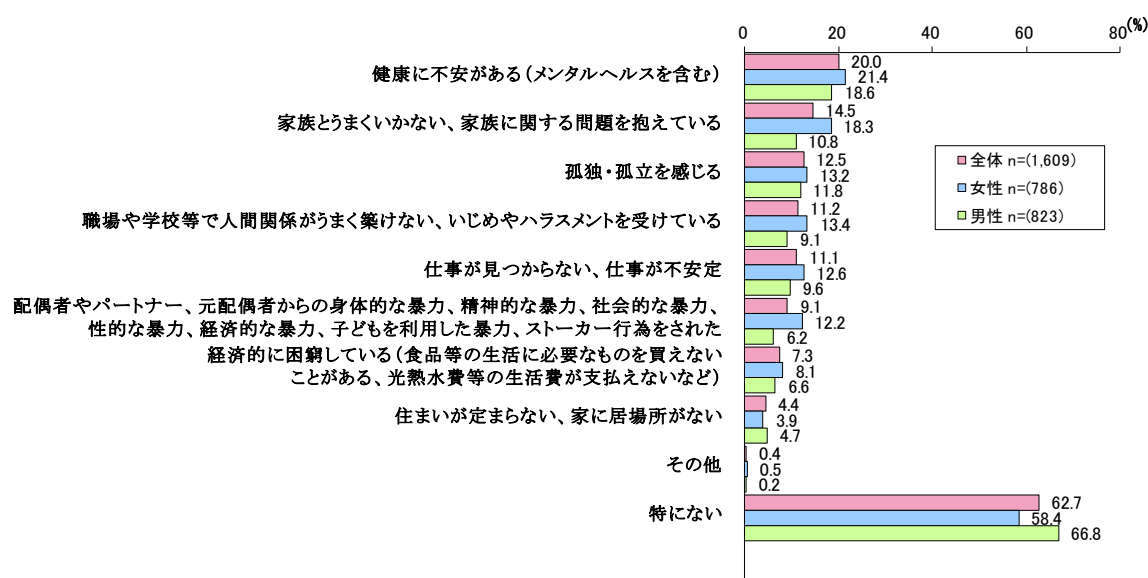
7

ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について

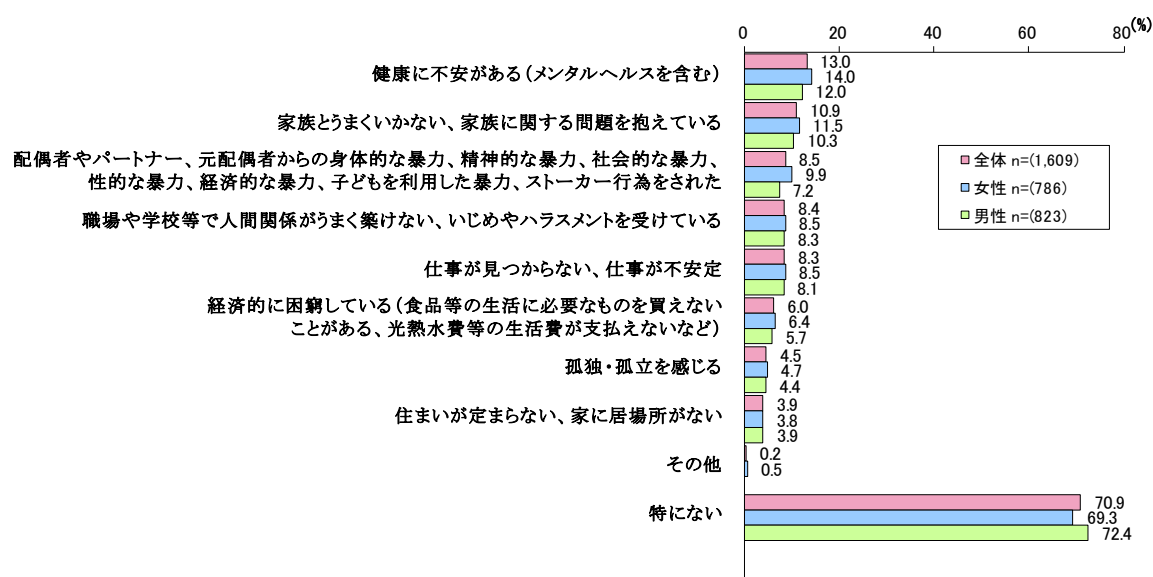
抱えている困難や悩みの有無（問 34）

- 「特にない」が最も高く、『ご自身』（62.7%）6割以上、『家族や知人』（70.9%）7割と高くなっています。
- 「特にない」に次いで「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」、「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」がそれぞれで高くなっています。

【①ご自身】

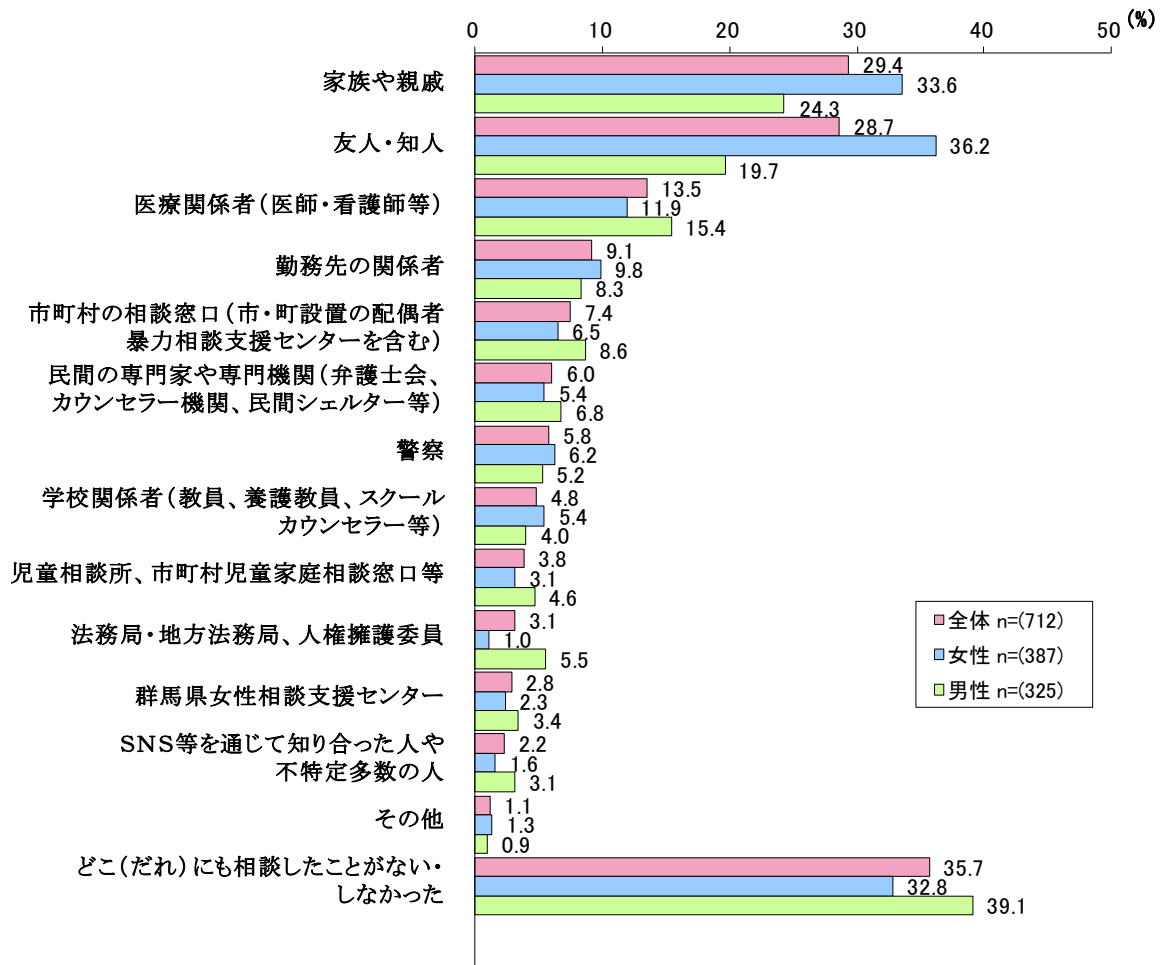


【②家族や知人】



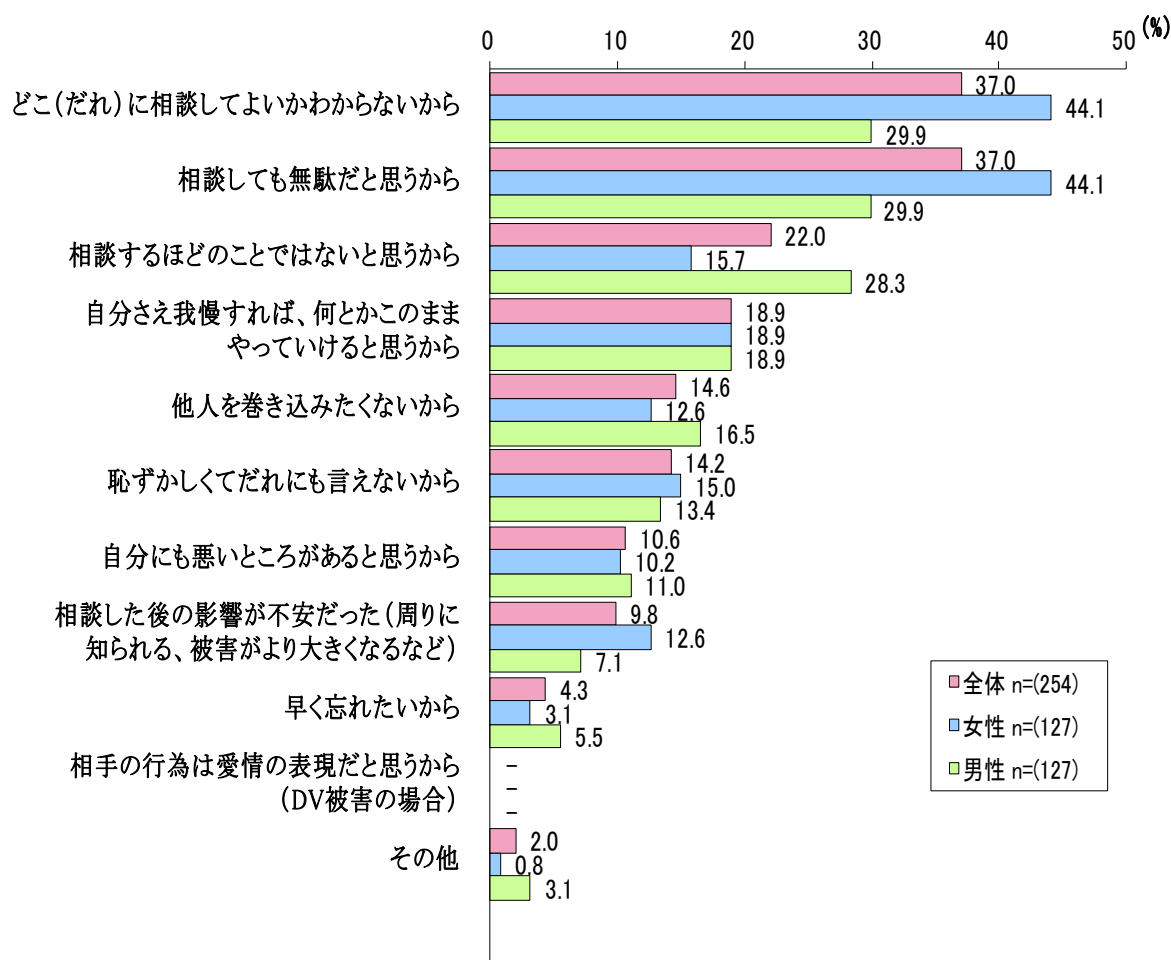
相談経験・相談先（問 35／複数選択可）

- 性別で見ると、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」は男性（39.1%）が女性（32.8%）より 6.3 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」は（35.7%）で令和元年度（57.1%）より 21.4 ポイント低くなっており、「家族や親戚」は（29.4%）で令和元年度（21.3%）より 8.1 ポイント、「友人・知人」は（28.7%）で令和元年度（24.9%）より 3.8 ポイント高くなっています。



### 相談をしない・しなかった理由（問 36）

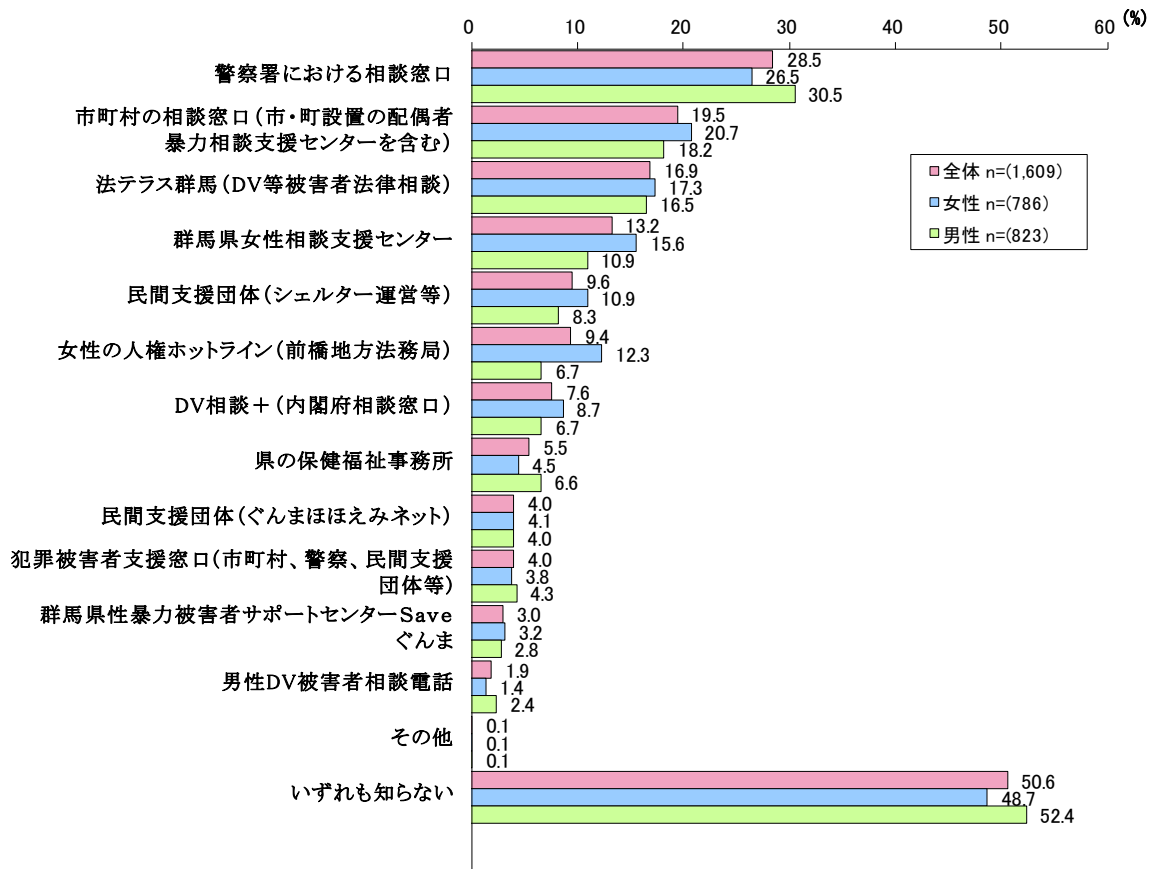
- 性別で見ると、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」は女性（44.1%）が男性（29.9%）より 14.2 ポイント、「相談しても無駄だと思うから」についても、女性（44.1%）が男性（29.9%）より 14.2 ポイント高くなっています。
- 経年変化を見ると、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」は（37.0%）で令和元年度（17.6%）より 19.4 ポイント、「相談しても無駄だと思うから」は（37.0%）で令和元年度（29.4%）より 7.6 ポイント高くなっており、「相談するほどのことではないと思うから」は（22.0%）で令和元年度（46.1%）より 24.1 ポイント低くなっています。





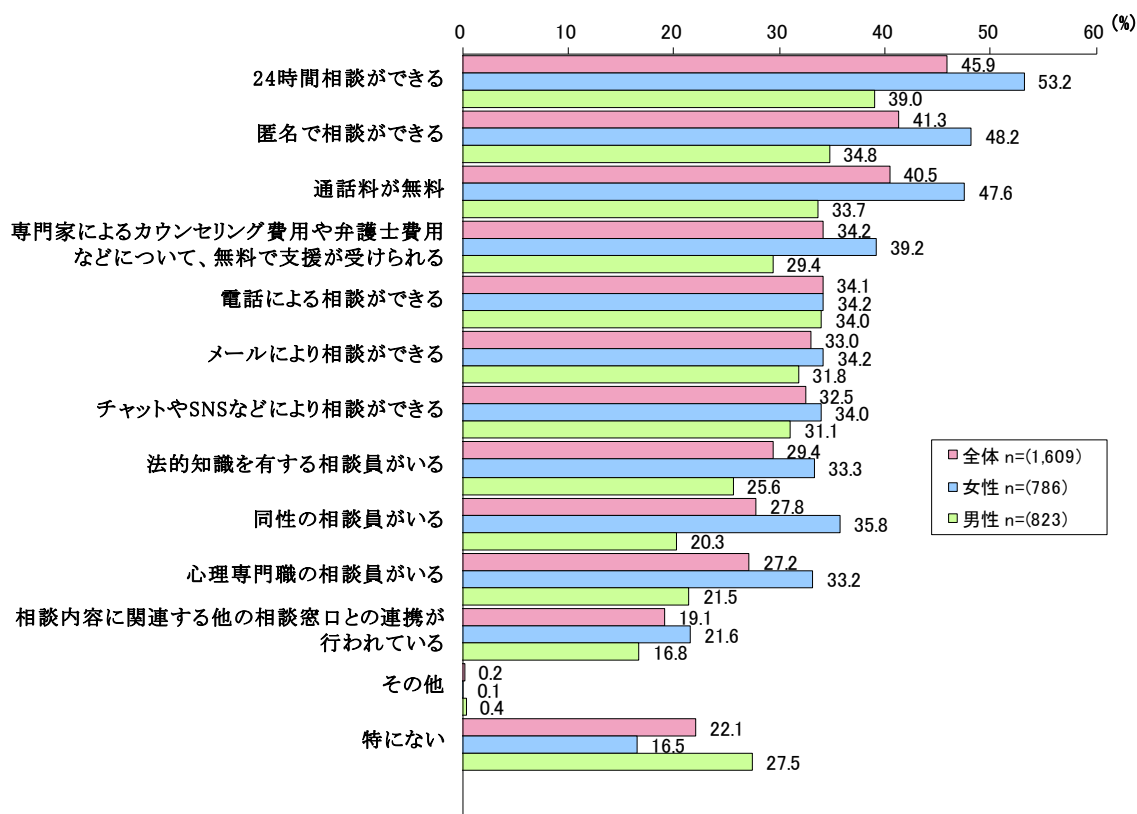
### 相談窓口の認知度（問 37／複数選択可）

- 「いずれも知らない」(50.6%)が最も高く、次いで「警察署における相談窓口」(28.5%)、「市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）」(19.5%)となっています。
- 性別で見ると、「いずれも知らない」（女性 48.7%、男性 52.4%）は男女とも 5 割前後となっています。



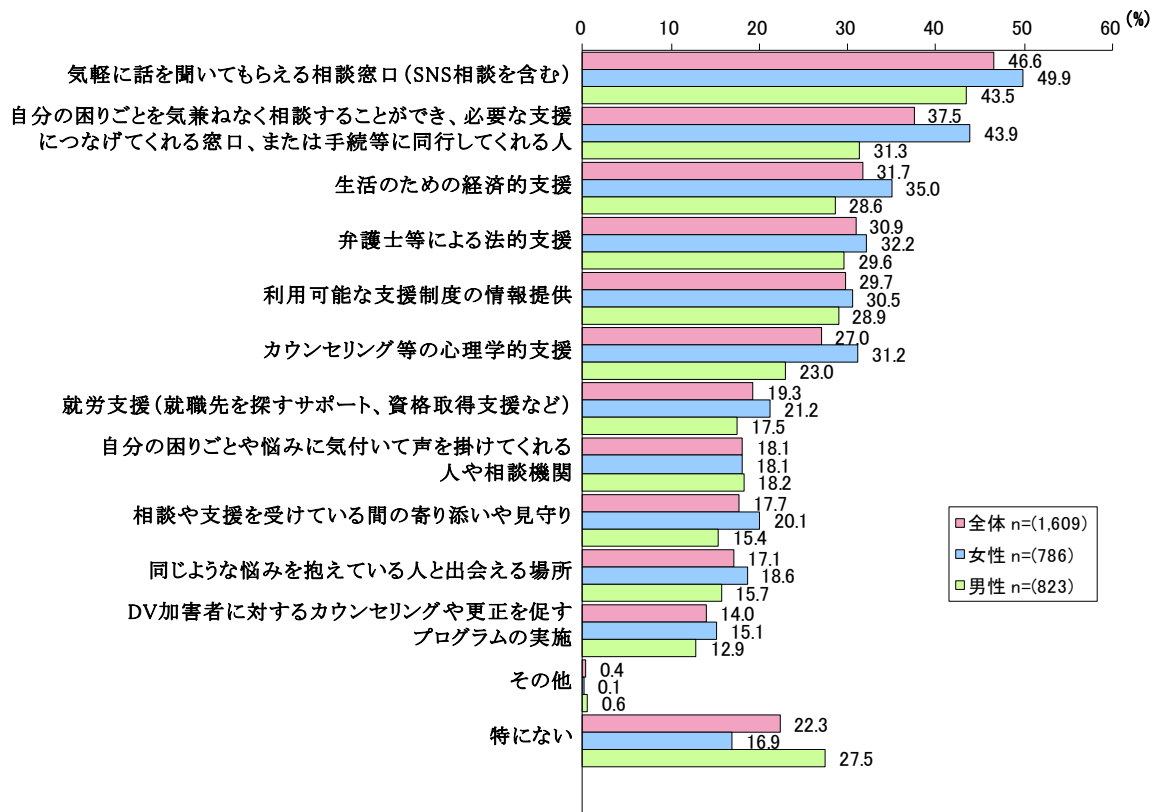
DV や抱えている困難等を相談する窓口における必要な配慮（問 38／複数選択可）

- 「24 時間相談ができる」(45.9%) が最も高く、次いで「匿名で相談ができる」(41.3%)、「通話料が無料」(40.5%) となっています。
- 性別で見ると、「特にない」を除く全ての項目で女性が男性より高くなっています。



DV や抱えている困難等を解決するために必要な支援等（問 39／複数選択可）

- 「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS 相談を含む）」（46.6%）が最も高く、次いで「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続き等に同行してくれる人」（37.5%）、「生活のための経済的支援」（31.7%）となっています。
- 性別で見ると、「自分の困りごとや悩みに気づいて声を掛けてくれる人や相談機関」、「特にない」を除く全ての項目で女性が男性より高くなっています。

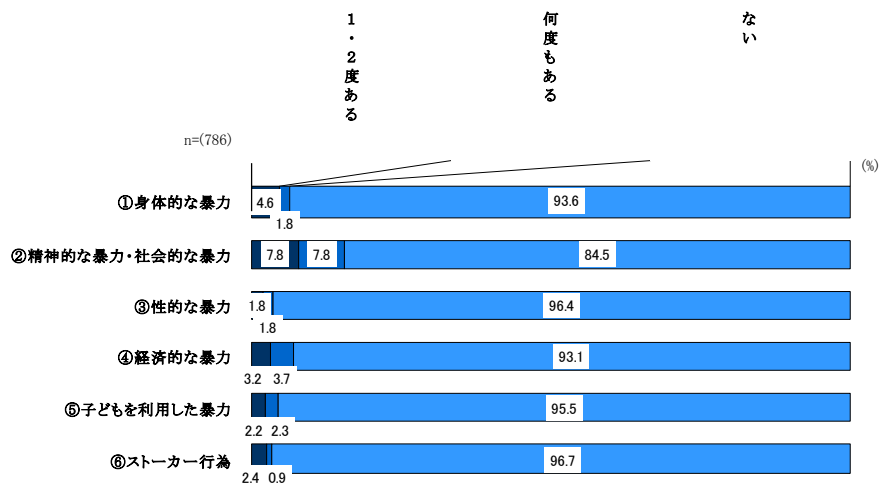


## D V被害・加害経験（問 40－1、40－2）

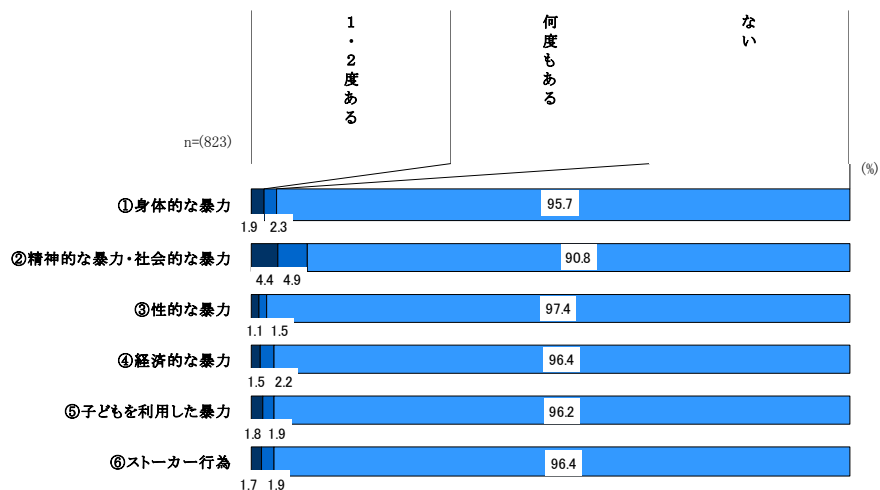
### 【問 40－1 被害経験】

- 「精神的な暴力・社会的暴力」の被害経験者（12.3%）が最も高く 1 割以上、次いで「身体的暴力」の被害経験者（5.3%）、「経済的な暴力」（5.2%）となっています。
- 性別で見ると、「ストーカー行為」を除く全ての項目で、女性が男性より被害経験が多くなっています。
- 経年変化を見ると、「1・2 度ある」「何度もある」の合計は、『精神的な暴力・社会的な暴力』（女性 15.6%）で令和元年度（女性 21.5%）より 5.9 ポイント低くなっていますが、他項目では男女とも同程度となっています。

#### 女性



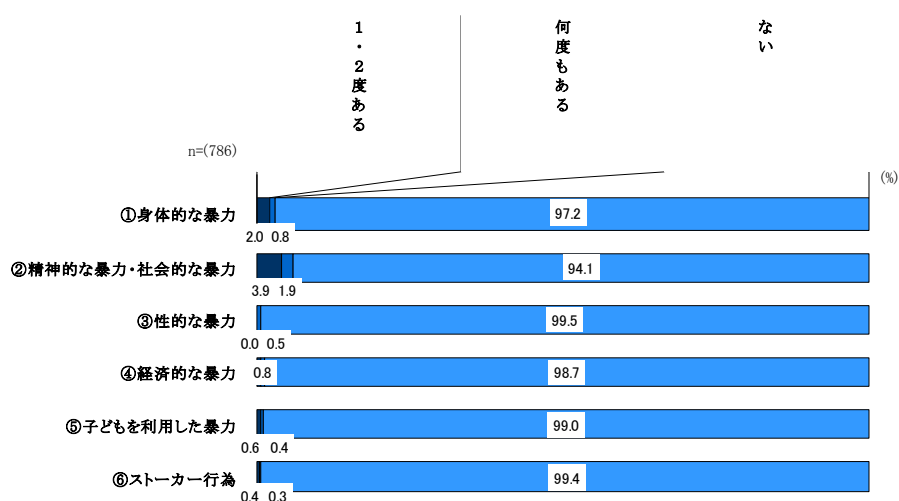
#### 男性



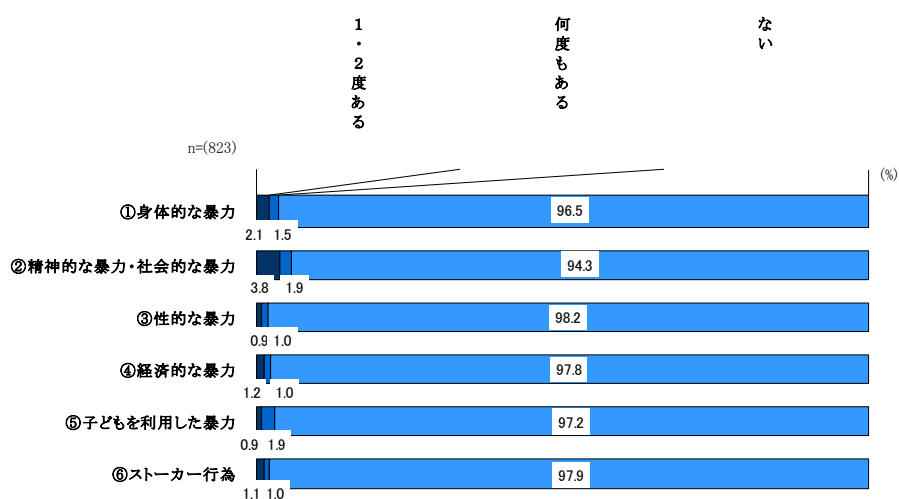
## 【問 40ー2 加害経験】

- 「精神的な暴力・社会的暴力」の加害経験者（5.8％）が最も高く、次いで「身体的な暴力」の加害経験者（3.2％）、「子供を利用した暴力」（1.9％）となっています。
- 性別で見ると、「精神的な暴力・社会的暴力」を除く全ての項目で、男性が女性より加害経験が多くなっています。
- 経年変化を見ると、「1・2度ある」「何度もある」の計は、『精神的な暴力・社会的な暴力』（女性 5.8％）で令和元年度（女性 10.5％）より 4.7 ポイント低く、他項目では男女とも令和元年度調査と同程度となっています。

### 女性



### 男性



男女共同参画社会に関する県民意識調査  
報 告 書  
＜概 要 版＞

令和 7 年 3 月  
群 馬 県  
(生活こども部生活こども課)